

Porsche Driver's Selection

取扱説明書 [ボルシェバイク RX、ボルシェバイク RS、ボルシェバイク]





Porsche Bikes

ポルシェバイク RS



ポルシェバイク



Contents

はじめに	06	その他のポルシェバイクに関する主な注意	23	駆動システム	36	ヘッドセット	53	車による自転車の輸送	65	保障、消耗、ブレーキパッド	76
フレームについての注意	12	クイックリリースまたはクイックアキスルの取り扱い	24	スプロケット	36	アヘッド式ヘッドセットの調整	54	飛行機による自転車の輸送	67	保障	76
カーボン材についての注意	12	ホイールとシートポストの確実な固定方法	24	ギアチェンジ	37	サスペンションフォーク	55	適切な服装	68	消耗	76
初めての乗車と毎回走行前	14	規定に従った使用	27	スプロケットの整備と調整	38	フォーク DT Swiss XMM の調整	55	自転車用ヘルメット	68	ブレーキパッド	76
クイックリリース	14	公道走行のための法規	28	ハブギア	41	フォーク SR Suntour NCX D-Lo の調整	55	ヘッドフォン	68	取り付け、調整、取り扱いに関する質問	76
ホイールとタイヤ	15	リフレクターの取り付け	28	ハブギアの調整	41	サグ	55	メガネ	68	ポルシェバイクについての問い合わせ先とサービス	77
ブレーキシステム	15	安全な公道走行のための注意	31	インナーベアリングとクランク駆動部	41	走行運転	56	その他	68	保守およびサービスのタイムプラン	78
ペダル	16	公道を走るためのヒント	31	チェーン	42	特別機能 “Lock Out”	56	検査	69	推奨トルク	80
ハンドル、ステム、サスペンションフォーク	16	道路外で走るための注意	32	ベルト駆動システム	43	ダンピング調整 [フォーク DT Swiss XMM のみ]	56	手入れについて	70	ネジのトルク [一般]	83
サドルの高さと位置	17	ブレーキシステム	33	ホイールとタイヤ	46	ライダーに自転車を合わせる	57	カーボンの場合の手入れについて	71	コンポーネントメーカーのウェブサイト	84
ネジ結合の点検	17	ブレーキシステムの点検	34	ホイール固定	48	シートの高さの調整	57	盗難防止システム	72		
公道で走る	17	ブレーキの摩耗	35	タイヤのパンク	49	ハンドルとステムの調整	61	自転車の収納と保管	73		
転倒後の点検	20			タイヤの取り外し	51	ステム	61	保証規定	74		
ホイールとタイヤ	20			タイヤの取り付け	51	ハンドル	63	メーカー保証の条件	74		
ハンドルとステム	21			車輪の取り付け	52	ブレーキとグリップシフト	63	保証請求の流れ	74		
駆動システム	21					荷物の輸送/子供の同乗	64	保証請求権除外のケース	75		
その他の対策	22										

はじめに

お客様へ

Porsche Driver's Selection の自転車をお買い上げいただき誠にありがとうございます。私共が自信を持ってお勧めする高い品質を備えた製品です。

この取扱説明書はお客様に自転車を安全にお使いいただき、適切な保守を行っていただくためのご案内です。本製品を初めてお使いになる前にこの取扱説明書をお読みください。不適切な取り扱いによって生じるリスクや危険を十分にご理解いただきたいと存じます。

この取扱説明書の中で自転車使用に必要な作業全てを詳細に説明することはできません。従って、添付のコンポーネントメーカーの取扱説明書やウェブサイトをご覧になり、情報を補足されるようお願いいたします。

大切なのは適切なお手入れと保守です。それを行えば、必ずトラブルのない運転と最適な性能が保障されます。このハンドブックでお客様に自転車専門の技術を伝授することは不可能ですし、またいくつかの作業には特殊な工具が必要になります。従って、保守と修理の作業が必要な場合は、最寄りのポルシェセンター、お客様の信頼する自転車専門店、あるいはポルシェバイクホットラインにお問い合わせください。

ポルシェは自転車を常に最新の技術に適合させており、フォーム、装備、技術において予告なく変更する権利を持っています。従って、お客様はこの取扱説明書にある数値、図、記載事項に関して請求権を行使することはできません。

ポルシェバイクはほぼ完全に事前に組み立てられた自転車です。しかしながら、走行開始前にそれぞれのパーツが正常に機能しているかを点検してくださいようお願いいたします。また、ご使用時には常時、ヘルメット、手袋、メガネ等、十分安全な服装を心がけてください。

公道を走るためにはお客様のお住まいの国の交通法規を調べ、自転車がその要求事項に適合するものかどうかをご確認ください。公道の現行交通法に注意し、ご自身と他の人を危険にさらすことがないように十分お気をつけください。また、道路以外のあるところで自転車を使用する場合にも、居住国の法規に従ってください。さらに、自然と環境を守る観点から、舗装路と道路だけを走行するようにお願いいたします。

必ず [規定に従った使用の章] の規定目的に従い、使用時には自転車の最大の耐荷重を超えないように気をつけてください。万が一自転車を規定に従わずに使用した場合は、いかなる保証の権利も無効になります。この取扱説明書の自転車全体を表示したページにある自転車専門用語をよくお読みください。

この取扱説明書は自転車の個々の部品から一つの自転車を組み立てたり、一部組み立てられた自転車を走ることができる状態にするためのガイダンスではありません。

このハンドブックを大切に保管し、いつでも各パーツ全ての機能を正しく点検できるようにしてください。

お子様がこのハンドブックの内容を理解できない場合は、ご両親が説明してください。

取扱説明書の安全に関する注意

この取扱説明書には以下の種類の安全に関する表示があります：

危険

重傷または死亡。 カテゴリー「危険」の「安全に関する注意」を守らない場合は、重傷を負ったり、または死亡します。

警告

重傷または死亡に繋がる危険があります。 カテゴリー「警告」の「安全に関する注意」を守らない場合は、重傷または死亡に繋がる危険があります。

注意

中程度の怪我または軽傷に繋がる危険があります。 カテゴリー「注意」の「安全に関する注意」を守らない場合は、中程度の怪我または軽傷に繋がる危険があります。

この取扱説明書は以下の規格に相応しています：

- EN 14764, 14765, 14766, 14872
- CPSC 16 CFR 1512
- AS/NZS 1927
- BS 6102, part 1
- JIS D 9301
- GB 3565
- ISO 4210, ISO 8098

あなたの新しい自転車をお楽しみください。

注意事項

物的損害に繋がる危険があります。 カテゴリー「注意事項」の「安全に関する注意」を守らない場合は、自転車の物的損害に繋がる危険があります。

情報

追加情報、ヒント、注意事項等は「情報」という言葉で表示されています。これをよく読み、遵守してください。

ポルシェバイク RX/RS の詳細



1	ブレーキレバー
2	シフトレバー
3	ブレーキキャリパー [リア用]
4	ディスクブレーキ [リア用]
5	リア用クイックリリース
6	クランクアーム
7	ブレーキキャリパー [フロント用]
8	ディスクブレーキ [フロント用]
9	サスペンションフォークバイク RX/リジッドフォークバイク RS
10	リアフォーク
11	リム
12	タイヤ
13	サドル
14	シートポスト
15	サドルクイックレバー
16	ステム
17	ハンドル
18	ハンドルヘッドベアリング/ヘッドセット
19	フロント用クイックリリース
20	チェーンリング
21	フロントディレイラー
22	チェーン
23	リアディレイラー
24	スプロケット
25	ペダル
26	インナーベアリング
27	シートチューブ
28	トップチューブ
29	シートステイ
30	チェーンステイ
31	ダウンチューブ
32	ヘッドチューブ
33	ドロップアウト

ポルシェバイクの詳細



1	ブレーキレバー
2	シフトレバー
3	ブレーキキャリパー [リア]
4	ブレーキレバー [リア]
5	ナット
6	クランクアーム
7	ブレーキキャリパー [フロント]
8	ディスクブレーキ [フロント]
9	サスペンションフォーク
10	リアフォーク
11	リム
12	タイヤ
13	サドル
14	シートポスト
15	サドルクイックレバー
16	ステム
17	ハンドル
18	ハンドルヘッドベアリング/ヘッドセット
19	フロント用クイックリリース
20	プーリー [フロント]
21	ベルト
22	プーリー [リア]
23	ペダル
24	ハブギア
25	サイドスタンド/センタースタンド
26	偏心インナーベアリング
27	シートチューブ
28	トップチューブ
29	シートステイ
30	チェーンステイ
31	ダウンチューブ
32	ヘッドチューブ
33	ドロップアウト

フレームについての注意

ポルシェバイクのフレームは高品質のアルミニウム合金または炭素繊維複合材 [カーボン 製のハンドメイドです。使用領域に相応した負荷に耐えられます [P27「規定に従った使用」参照]。

警告

過剰な負荷、事故、転倒等によるフレームの損傷。 損傷したフレームは突然破損することがあり、転倒の原因になります。フレームが損傷したり、事故や転倒の後にはポルシェバイクホットラインにご連絡ください。



カーボン材についての注意

カーボンとアルミニウムでは損傷した場合に全く違った様子を示すということに注意してください。アルミニウムと違い、カーボンでは過剰な負荷がかかった場合、へこんだり変形する [典型的なアルミニウム損傷状態] ことがあります。損傷の影響はカーボンでは多くはまず内側 [枝毛] に現れます。転倒の後にはフレームまたはフロントフォークを必ず信頼できる自転車専門店、またはポルシェセンターでポルシェバイクホットラインと連絡を取った上で検査し、カーボン構造に損傷があった場合は交換してください。カーボン部品は損傷後に突然破損することがあります。繊維が破けた場合は扱いに注意が必要です。繊細なカーボン繊維で怪我をする危険もあります。



カーボン部品は損傷すると修正は不可能です。損傷した部品はすぐ交換してください。塗料の損傷は材料が湿気を吸わないように必ず修理してください。湿気が入り込むと材料の特質に悪影響を及ぼすことがあります。クランプする場合は圧力のかけすぎに注意してください [例：サドルやフロントディレイラーのクランプ]。常時トルクレンチを使い、それぞれの推奨トルクに注意してください [P80「推奨トルク」]。

カーボンの接触面にグリスが付かないようにしてください。組み立て用の特殊なカーボンペーストを使ってください [自転車専門店でお求めください]。輸送の際にカーボンフレームを絶対に組み立てスタンドやルーフスタンドに挟まないでください。カーボン製でない場合は、その代わりにシートポストのみをご使用ください。

カーボン部品を車の中で太陽光線などの強い熱にさらさないでください。フレームとフロントフォークに後から塗料を塗ったり、パウダーコーティングしないでください。高い温度が生じて部品が損傷したり破損したりするためです。

警告

カーボン部品の材質疲労。 ハンドル、ステム、シートポストのようなカーボン製の部品が激しく疲労した場合はメタル製の部品の疲労と同様です。カーボン製部品を保守およびサービスのタイムプランに沿って交換してください [P78 参照]。

警告

損傷したカーボン製部品の使用。 カーボンフレーム、カーボンフォーク、またはその他のカーボン部品でカチッという音がしたり、ヒビ、切り込み、打ち傷、または変色が見られた場合は、使用を中止してください。損傷したカーボン部品は突然破損し、転倒の原因になることがあります。損傷したカーボン部品は直ぐ交換してください。

初めての乗車と毎回走行前

「規定に従った使用方法」の章に記載されている通りに自転車を御使用してください。この章には使用目的と最大総重量が記載されているのでよくお読みください。

組み立てとその後の最終チェックで何度も自転車の機能性がチェックされます。しかし、輸送中に検査時の機能性結果と誤差が生じることもあり得ます。また、第三者があなたの自転車で作業することもないとは言えません。

注意事項

ですから自転車に初めて乗る前には必ず自転車を点検してください。

クイックリリース

フロントアクスル、リアアクスル、シートポストのクイックリリースまたはクイックアクスル [バイク RX] を点検してください。



警告

部品が緩む。クイックリリースが正しく固定されていないと、部品が緩み、転倒に繋がることがあります。全てのクイックリリースが固定されているかどうか点検し、その後も時々締め直してください。

ホイールがしっかりと取り付けられていて、サドルが捻じれることがないことを確認してください。

ホイールとタイヤ

タイヤとホイールの状態が良好かどうか点検してください。タイヤの空気圧を親指、またはできればマンメーター [圧力計] で点検してください。長時間経過していたり、輸送距離が長い場合は空気が抜けていることがあります。

両方の車輪が自由に回ることを確認し、ホイールの回転を点検してください。ホイールが正しく回らない場合は、タイヤ、スポーク、またはハブに損傷があることが考えられます。

ブレーキシステム

初めて乗車する際にブレーキシステムを点検してください。まずハンドブレーキレバーの配置を点検してください。右側通行の国々では、ブレーキシステムは左のブレーキレバー



で前輪に、右のブレーキレバーで後輪にブレーキがかかる状態で納品されます。左側通行の国々では、右のブレーキレバーで前輪に、左のブレーキレバーで後輪にブレーキがかかります。

警告

急ブレーキの影響。前輪ブレーキを急に効かせると転倒することがあります。ブレーキレバーの配置とブレーキ制動力に慣れてください。油圧式ディスクブレーキの場合はブレーキの制動力がよりパワーアップするので、一般道路の交通から離れた平坦で滑らないコースでブレーキに慣れてください。



前輪ブレーキレバーと後輪ブレーキレバーの配置に慣れてください。P33「ブレーキシステム」の章をよくお読みください。

危険

ブレーキ制動力の減少または不足。ブレーキシステムが不適切または損傷していると大きな事故に繋がることがあります。毎回走行前にブレーキの機能を点検してください。

初めての乗車と毎回走行前

ペダル

ポルシェバイクは数種のペダルシステムを組み合わせでお求めいただけます。フラットペダルとビンディングペダルの2種類があります。

注意

ビンディングペダルの着脱手順。十分練習することなく、またはビンディングをきつく固定しすぎると転倒の原因になることがあります。添付のペダル取扱説明書をよくお読みください。添付取扱説明書を手掛かりにペダルのビンディングを調整してください。詳細はペダルメーカーのウェブサイトをご覧ください [P84 参照]。初回走行前にペダルの着脱方法に慣れてください。



ハンドル、ステム、サスペンションフォーク

ハンドル、ステム、サスペンションフォークを必要に応じて調整することができます。手順についての詳細は P55 の「サスペンションフォーク」の章と P61 の「ハンドルとステムの調整」の章をご覧ください。この章をよく読んで正しい調整作業を行ってください。

警告

ハンドルが重たい、またはブロッキングする。ハンドルが重たい、またはブロッキングすると転倒に繋がることがあります。ハンドルが軽く動き、ボーデンケーブルがステアリングアングルを邪魔しないようにしてください。

警告

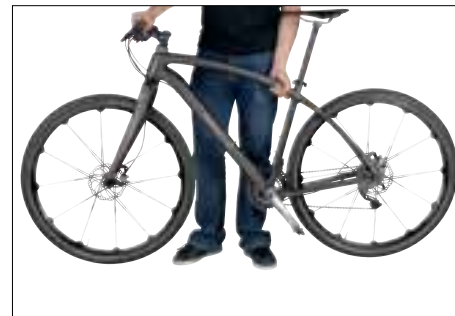
サスペンションフォークが適切に調整されていないと転倒に繋がる。サスペンションフォークが適切に調整されていないとフォーク内に空気が十分入りません。[これについての注意事項は P55 参照]。

サドルの高さと位置

サドルの高さおよび位置を身長、またはボトムブラケット上の自分の好きな位置に合わせるすることができます。

ネジ結合の点検

自転車を約 10 cm 持ち上げ、そこから地面に落としてください。ガタつく音がしたら部品が緩んでいるということです。どこからその音がするか調べ、ネジの結合箇所とペアリングを点検してください。



公道で走る

公道を走りたい時はそれぞれの国の法規に従い、自転車に装備を施してください。

情報

公道で走ることについての情報に関しては、P28 の「公道走行のための法規」の章に注意してください。P31 の「安全な公道走行のための注意」の章もご覧ください。公道で走る前に居住国で適用されている特殊規定を調べてください。

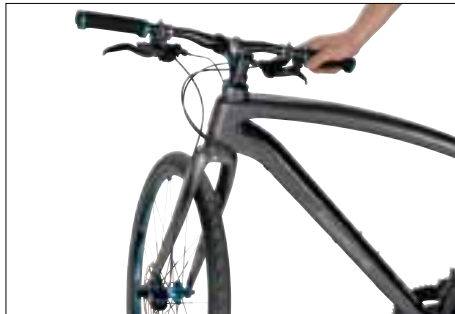
初めての乗車と毎回走行前

警告

サイドスタンド/センタースタンドが安全でない場合。サイドスタンド/センタースタンドの安全が不完全な場合、走行中に開いてしまい、転倒の原因となることがあります。サイドスタンド/センタースタンドは完全に折りたたんでください。

警告

不適切または不十分な状態で運転を開始した場合。不適切または不十分な状態で運転を開始すると大きな事故に繋がることがあります。この章に挙げられているポイントの一つでも満たさない場合は運転しないでください。ご質問がある場合、または自転車の運転開始が不確かな場合は、ボルシェバイクホットラインにお問い合わせください。



警告

疲労による損傷と消耗。疲労による損傷と消耗は傷、歪み、ヒビ、または各パーツがその機能を100%発揮できない原因になることがあります。寿命を超えた部品の場合、突然支障をきたすことが考えられます。自転車の疲労と消耗を定期的に点検してください。グリップのゴムやグリップシフターが損傷または消耗していたら、交換してください。何か気がいたら必ずボルシェセンターまたはボルシェバイクホットラインにご連絡ください。

警告

夜間または暗間での安全対策。夜または視界が悪い時にライトをつけて走る場合、ライトは居住国の適用法規に従うものにしてください。ヘッドライトとテールライトが正しく機能するか点検してください。汚れたり、損傷したりフレクターで走行しないでください。

警告

雨、雪、または強風時の安全対策。悪天候または極端な天候時には、自転車の反応や機能が普段とは異なることに注意してください。雨天時にはブレーキ性能が落ちます。走行時の天候状態に合わせて乗り方に注意してください。雪や凍結の時は自転車のコントロールを失ったり、大転倒したりすることがあります。極端な天候のときは走行しないようにしてください。

転倒後の点検

転倒の後には機能が低下したり損傷が見られたりすることがあります。動かなくなることもあります。従って、以下の点検を行ってください。

ホイールとタイヤ

ホイールを点検してください。ホイールはクイックリリース/クイックアクスルまたはネジを締めることによって車輪受けに固定され、フロントフォークとリアフォークの中心になければなりません。また自由に動き、正しく回転しなければなりません。タイヤに損傷がないかどうか、特にカーカスをよく点検してください。



ハンドルとステム

ハンドルとステムに損傷やヒビがないかどうか点検してください。ステムを膝の間に挟んでハンドルを捻ってみてハンドル・ステム・ユニットが互いに捻れていないことを確認してください。

駆動システム

チェーンが前のチェーンリングとリアカセットにあるか点検してください。ギア側に転倒した場合は損傷した可能性があります。ギアを一通り切替えてみてリアディレイラーまたはドロップアウトが曲がっていないか、後輪のスポークに近過ぎていないかを確認してください。



警告

曲がったリアディレイラー。リアディレイラーがスポークに偏っていると、転倒の危険があります。リアディレイラーが曲がっていると自転車は動きません。自転車専門店かポルシェバイクホットラインにお問い合わせください。

注意

捻れたフロントディレイラー。フロントディレイラーが捻れていると、チェーンリングのチェーンが外れてしまうことがあります。それによって自転車は駆動システムを失うことになります。フロントディレイラーが捻れていると自転車は動きません。

転倒後の点検

その他の対策

– サドルが転倒によって捻れていないことを確認してください。このためにはサドルがトップチューブに沿っているかどうかを調べてください。

– ネジと部品が緩んでいないか点検してください。

以上の点が問題なしと確認できた上で再び自転車を使用してください。取合えず、ブレーキを強くかけたり、立ち漕ぎ等の自転車に大きな負担をかけることはしないようにしてください。リスクを避けるためにも、残りの行程は別の適切な交通手段を利用した方がいいでしょう。ご自宅でもう一度よく調べてください。ご質問がある場合はすぐに信頼する自転車専門店、ポルシェセンター、またはポルシェバイクホットラインにご連絡ください。



警告

曲がった部品。曲がった部品は元に戻そうとしないでください。すぐに折れてしまう危険があるからです。特にフレーム、フロントフォーク、ハンドル、ステム、シートポストといった安全に重要な部品はこれをしてしないでください。曲がった部品は直ちに交換してもらってください。



警告

損傷した部品。事故で損傷した不適切な部品を続けて使用すると新たな事故に繋がることがあります。欠陥のある自転車または部品を絶対に使用しないでください。

その他のポルシェバイクに関する主な注意



情報

ポルシェの純正部品・付属品だけを使用してください。他の部品・付属品を使った場合、ポルシェはその部品が原因で生じた損傷に対する責任を負いかねます。これは公認された技術検査連盟や監視連盟、あるいは当局の認可があったとしても同様です。ポルシェの自転車に付属品を装備する前に、これが許可されるか、そして公道で走ることが許されているかを厳重に調べてください。



情報

ライダーの身長。身長に合った適切なフレームサイズはポルシェ正規販売店に相談して選んでください。ポルシェバイクには各3つのフレームサイズがあります。これらは以下の身長に適します：

フレームサイズ [S] 身長：160–170cm

フレームサイズ [M] 身長：171–184cm

フレームサイズ [L] 身長：185–195cm



警告

技術面に欠陥がある。技術面に欠陥がある場合は損傷に繋がりが、転倒や事故の原因になることがあります。技術面が完璧な状態で自転車をご利用ください。



警告

チャイルドシートと子供用牽引車の使用。ポルシェの自転車は、チャイルドシートを取り付けたり、子供用牽引車付きで走行することが許されていません。チャイルドシートや子供用牽引車は使用しないでください。



情報

ポルシェバイク取扱説明書各最新版は www.porsche.com/bike からダウンロードできます。

クイックリリースまたはクイックアクスルの取り扱い

前輪と後輪およびシートポストにあるクイックリリースまたはクイックアクスル[バイク RX]は車輪の脱着をやすくし、ライダーの身長にそれぞれ素早く合わせるのに役立ちます。毎回自転車に乗る前に、クイックリリースまたはクイックアクスルがしっかりと締まっていること、そして車輪とシートポストが自転車に固定していることを確かめてください。

クイックリリースを締めると過剰に部品を固定するために必要なクランプ力が起こります。ハブの向かい側にあるクランプナットはクランプ結合のプリロードを調整します。

車輪のクイックリリースまたはクイックアクスルレバーはローラーチェーンの向かい側、つまり進行方向左側の前輪と後輪にあります。車輪の取り付けの際にはクイックリリースがいつもこのサイドにあることに注意してください。そうすればホイールを付け間違えることはありません。

自転車を駐輪する時には、構成部品をクイックリリースで安全にすれば盗難予防にも十分になります。

警告

部品が緩む。クイックリリースまたはクイックアクスルが適切に固定されていないと構成部品が緩み、転倒に繋がる可能性があります。全てのクイックリリースまたはクイックアクスルが固定されているかどうか点検し、必要ならば締め直してください。

ホイールとシートポストの確実な固定方法

あなたの自転車には1段式または2段式のクイックリリースか1本のクイックアクスルがついています。2段式のクイックリリースを開けるためにはまず少し大きい方のレバーを開きます。その後2番目のレバーを開けます。クイックリリースの上には「Open」と書いてあるはずですが。



一段式クイックリリースの場合レバーは1つだけです。それを開けてください。

クイックアクスル[バイク RX]はレバーを時計回りの方向に回して開けます。レバーを少し上げて何度も倒すとより簡単にできます。

注意

ディスクブレーキが熱くなる。ディスクブレーキはブレーキをかけることによって熱くなることがあります。燃焼する危険があります。ディスクブレーキに接触しないようにしてください。車輪のクイックリリースで作業する時はディスクブレーキを冷却してからにしてください。

クイックリリースを閉めるためには両方または1つのレバーを同時にクランプの方向に動かしてください。レバーはクランプ幅の半分まで簡単に動きます。その後はこの力が徐々に増し、クランプ幅の最後の頃はなかなか動かなくなります。ですからしっかりと必要なクランプ力をかけてください。

クイックアクスルはレバーを時計回りの方向に軸がしっかり止まるまで閉めます。このためにはレバーを何度か倒さないとなりません。続いてレバーを上げ、希望の位置まで回します。

クイックリリースは閉まった状態で車輪に対して平行の位置にあります。レバーが外部からの接触によってうっかり開かないように注意してください。



クイックリリースまたはクイックアクスルの取り扱い

閉まった状態のクイックリリースが固定していることを確かめてください。これを捻ろうとしてみてください。捻れた場合は、反対側にあるナットでもっと強く締めてください。

クイックリリースを改めて開けてナットを時計回りの方向に回し、より固く締めてください。クイックリリースを再び閉め、再度その座りを点検してください。

クイックリリースをきつく締め過ぎた場合は、同じように行ってください。ただし、フィットするまでナットを反時計回りの方向に緩めます。

調整の後、ホイールがしっかりと座っていることを前輪と後輪を上に向けて調べてください。車輪を揺すってフロントフォークまたはフレームに固定して取り付けられているかどうかを点検してください。

i 情報

フロントフォークには安全装置がついています。前輪を取り外すには、車輪を下に引き出すために、クイックリリースまたはクイックアクスルのナットを少し広げるように回すことが必要です。



! 警告

部品が緩む。クイックリリースが不適切に固定されていると部品が緩み、転倒に繋がることがあります。クイックリリースがしっかりと固定されているかどうかを調べ、必要に応じて締め直してください。



規定に従った使用

ポルシェバイクはマウンテンバイクの要求事項に応じて開発された自転車です。この自転車は公道で使用するためのものではありません。公道で使うためには、あなたのお住まいの国の法規を満たすものでなければなりません。

自転車は舗装路と未舗装路そして道路を走るためのものです。この取扱説明書にある安全技術上の注意を遵守しない場合は、自転車に支障をきたす危険があります。それによって生じる損害に対してポルシェは責任を負うものではありません。

ポルシェバイクはダウンヒル/フリーライドパーク、タンプリング、レースには適していません。許容積載重量は自転車、ライダー、荷物を合わせて120 kgです。この自転車はチャイルドシートおよび牽引車向きではありません。

さらに、規定に従った使用にはこの取扱説明書に規定された運転・保守・維持の条件を守ることが含まれます。この取扱説明書はポルシェバイク RX、ポルシェバイク RS、ポルシェバイクについて述べていますが、詳細までは説明できません。添付のコンポーネントメーカーの取扱説明書と組み立て説明書またはコンポーネントメーカーのウェブサイト上の取扱説明書にご確認ください。ご質問がある場合はポルシェバイクホットラインがご対応いたします。

! 警告

自転車に過剰な負荷がかかった場合。自転車に過剰な負荷がかかると安全上重要なコンポーネントが破損したり、支障をきたすことがあります [例: フレーム、フロントフォーク、ハンドル、ステム、シートポスト等]。許容積載重量120 kgを絶対に超えることがないように、一人で乗ってください。

! 警告

コントロール不可能な走り方。不適切に荷物を固定して運んだり、軽率な走り方をすると、自分自身や他の人を危険にさらすことになります。自転車が制御不能になることがあります。荷物、バッグなどをハンドルにかけて運ばないでください。手放し運転はしないでください。

公道走行のための法規

公道で走る時は居住国の法規に従って装備してください。自転車で公道に出る前に、あなたのお住まいの国の規定を調べてください。

世界の多くの国では相応の照明装置を装備する必要があることに注意してください。多くの場合、照明には自転車のダイナモ経由で電圧が供給されます。充電電池式の照明装置は多くの場合、使用が許可されていません。あなたのお住まいの国でどのような規定があるか調べてください。

また、他の法規にも注意してください。一部では、ベル、またはそれに類似するものを要求する規定もあります。

ポーシェの自転車には世界各国の法規に対応した付属のリフレクターが付いています。リフレクターはあなたの国専用のものとしてあらかじめ取り付けられているわけではありません。自転車に相応のリフレクターを装備したい場合は、後述の表にある必要なリフレクターから選んでください。リフレクターを完全装備するためにリフレクター付きの特殊ペダルが付いているので、あなたの自転車に取り付けてください。

ポーシェバイク RX と RS にはフランスとオーストラリア用のスポークリフレクターは付いていないことに注意してください。これらの国で自転車に乗りたい場合は、スポークリフレクターを後付けするようお願いいたします。この場合、このスポークリフレクターはあなたの国の法規に従ったものにしてください。

リフレクターの取り付け

ポーシェの自転車にはリフレクターに関する世界各国の規定に相応するリフレクターセットが付いています【例外はフランスとオーストラリア用のクランクブラザーズ・コバルト・ホイール装備バイク RX と RS のスポークリフレクター】。固定に必要な工具も一緒に届けられます。フロントリフレクターの取り付けのためには直径 31.8 mm のハンドル用のハンドル固定用クランプ NGH-318 を使用してください。固定用クランプとリフレクターの各記号は直接部品に記載されています。

取り付けには開いている固定用クランプをハンドルの上にセッティングしてください。固定用クランプをできるだけハンドルの中心の近くまで押し、これをプラスレンチで締めてください。クランプがハンドルにしっかり固定されたら、ホワイトのリフレクター RR-180-SL を固定用クランプに押し込みます。



リアリフレクターの固定も同じような手順で行います。シートポストのシートポスト固定用クランプ NGS-272 を固定し、レッドのリフレクター 180-SK を固定用クランプに押し込みます。リフレクターが走行中の邪魔にならないように、シートポストをフレームの中に十分はめ込んでください。



スポークリフレクターに関してはポーシェバイクと各国に必要な情報を後述の表でご覧ください。全ての固定用クランプとリフレクターに必要な記号が付いていることに注意してください。

スポークリフレクターの固定は次の手順で行ってください：リフレクターを固定用クランプと共にスポークに置いてください。リフレクターを互いに向かい合った 2 つのスポークの間に軽く挟みます。固定用クランプをリフレクターの中に回しながら入れ、これをプラスレンチで締めます。リフレクターを必要に応じてスポーク間で中心から外に向かって半径に沿って押してください。

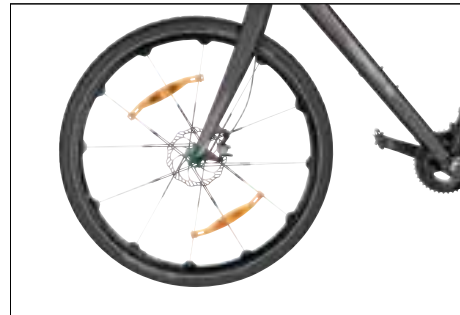


警告

スポークリフレクターが緩む。 スポークリフレクターが緩んでいると転倒することがあります。リフレクターが捻れないこととスポーク間でしっかりフィットしていることに注意してください。

注意事項

スポークリフレクターが緩む。 スポークの損傷の危険。リフレクターをスポーク間で強く締めすぎないでください。



ポーシェバイク RX と RS のスポークリフレクターの固定は次のような手順で行ってください：

- リフレクターを 2 つのスポークの間に押し込み、網目サイドがスポークに横になるようにし、リフレクターが 3 つ目のスポークに挟まるようにしてください。
- 横から付属の固定用キャップをリフレクターの端にセッティングし、これを付属のプラスレンチで締めてください。
- リフレクターが半径に沿ってリム向きに正しく取り付けられているか点検してください。

公道走行のための法規

国	位置	数量	リフレクターの記号	
アメリカ/カナダ/イギリス/日本	フロント [ハンドル]	1	RR-180-SLW	
	リア [シートポスト]	1	RR-180-SLR	
	固定用クランプ フロント	1	NGH-318	
	固定用クランプ リア	1	NGS-272	
	バイク RX/RS [スポーク 12 本 - クランクブラザーズ]	2	RR-530-WUW SW II	
	バイク ホイール スタンダード	2	RR-530-WUW	
EU 諸国 [フランスを除く]	フロント [ハンドル]	1	RR-180-SLW	
	リア [シートスポット]	1	RR-180-SLR	
	固定用クランプ フロント	1	NGH-318	
	固定用クランプ リア	1	NGS-272	
	バイク RX/RS [スポーク 12 本 - クランクブラザーズ]	2	RR-317-WUA SW II	
	バイク ホイール スタンダード	4	RR-317-WUA	
フランス	フロント [ハンドル]	1	RR-180-SLW	
	リア [シートスポット]	1	RR-180-SLR	
	固定用クランプ フロント	1	NGH-318	
	固定用クランプ リア	1	NGS-272	
	バイク RX/RS [スポーク 12 本 - クランクブラザーズ]	-	**	
	バイク ホイール スタンダード	2	RR-530-WUA	
オーストラリア	フロント [ハンドル]	1	RR-180-SLW AS	
	リア [シートスポット]	1	RR-180-SLR AS	
	固定用クランプ フロント	1	NGH-318	
	固定用クランプ リア	1	NGS-272	
	バイク RX/RS [スポーク 12 本 - クランクブラザーズ]	-	**	
	バイク ホイール スタンダード	2	RR-530-WUA AS	

安全な公道走行のための注意

自転車に乗るということでああなたは交通上の弱者に属することになります。このことを忘れないでください。自転車は衝撃吸収部がありません。事故が起こると健康に重大な被害が及ぶことがあります。従って周囲に最大の注意を払い、危険を事前に認識し回避するよう心がけてください。他の人々の間違いを予測してください。

i 情報

この取扱説明書は自転車の乗り方を教授するものでもなければ、公道での行動規則を示すものでもありません。

公道を走るためのヒント

- 常にあなたの自転車が交通上安全な状態にあることを確認してください。
- あなたの国の交通規則を守ってください。
- 注意深く、予測しながら走ってください。自分と他の人を危険にさらさないよう心がけてください。
- ドイツでは国道と高速道路は絶対に走ってはいけません。あなたの国の規則を調べてください。
- 自転車に乗りながらヘッドフォンで音楽を聴いたり、電話をしたりしないでください。気が散って注意散漫になり、道路上の危険に気がつかないことがあります。
- 前を走る車から距離を保ってください。前の車が急ブレーキをかけると追突の危険があります。
- 天候や視界が悪い時は自転車のライトを点けてください。

- 路面が濡れている場合はブレーキの効きが悪く、制動距離が長くなります。注意してください。さらに濡れた道路ではカーブでハンドルが切りにくくなります。安全走行できるよう速度を変えてください。
- 周りに認識されやすくするように、明るくて目立つ服を着てください。脚の部分がピッタリしたパンツを履くか、ベルトかクリップで留めるかして、パンツが駆動システムに巻き込まれないようにしてください。安全のためにヘルメットを被り、保護メガネをかけてください。
- 以下の場所は事故が起こりやすい所です。特に注意してください：
 - 合流点。自転車道が車道と平行して伸びている場合も含まれます。曲がってくる車によって危険が生じます。
 - 線路を横切る時。
 - 車の横で車の死角に入ってしまう、車のドライバーがあなたに気がつかない時。
 - 自転車道で、犬、子供、または歩行者が不用意に道の反対側に移る時。

道路外で走るための注意

自転車は今では余暇の過ごし方や自然の楽しみ方に大きな役割を果たしています。緑地、林道に行く場合にも、自然を保護するために、そしてライダーとハイカーのトラブルを避けるためにいくつかの規則に従わなくてはなりません。

通行を許されている道や道路だけを走り、動物や植物の保護に努めてください。野原、畑、河川を通ったり、森の中を縦断したりしないでください。急ブレーキをかけてブレーキの跡を残さないでください。

走る道とあなたの走行テクニックにスピードを合わせてください。

散歩をする人やハイキングをする人に注意してください。特に見通しの悪い箇所や下り坂で速度を落とし、常にブレーキをかけられる状態にしてください。

ゴミはゴミ箱に捨て、ゴミ箱が無い場合はゴミを家に持ち帰るようにしてください。自然に何らかの手を加えることなく、来た時のままの状態にして帰るようにしてください。

i 情報

自分の体力や技能を過信しないでください。耐久力や走行技術は急に身につけることはできないものです。始めは軽く、そして徐々に難易度を上げていってください。シチュエーションやツアーの規模によっては何年もトレーニングしなければならないものも少なくありません。

i 情報

マウンテンバイカーが必要とする詳細情報はドイツ・マウンテンバイク・クラブ [www.dimb.de] または国際マウンテン・バイサイクリング協会 [www.imba.com] のリンクをご覧ください。

ブレーキシステム

ブレーキシステムは適切な走行スピードを実現し、自転車を必要な時にできるだけ素速く停止させるための装置です。このフルブレーキがかかるとあなたの体重が後輪から前輪に移動します。宙返りや前輪のスリップを避けるために体重を、特に下り坂では、後ろに移動させてください。両方のブレーキをできるだけ同時にかけてください。いろいろなタイプの路面で、そして囲いのある敷地でこのブレーキ動作を練習してください。雨天時はブレーキ制動力が低下し、さらにタイヤのグリップ力も落ちることに注意してください。そのような時は走行スピードを落としてください。

あなたの自転車には前輪と後輪に油圧式ディスクブレーキが装備されています。長い間ブレーキをかけて摩擦状態が連続すると、ブレーキシステムが過剰に熱を帯びることがあります。それによってブレーキ力が落ちたり、効かなくなったりすることがあります。従って事故の危険があります！

このようなことを避けるために、長い下り坂ではブレーキをかけ続けるのではなく、ブレーキをこまめに繰り返しかけてください。心配な時は途中停止してブレーキを冷却してください。

! 警告

急ブレーキの制動力。突然前輪ブレーキをかけると転倒することがあります。ブレーキレバーの配置とブレーキの制動力に慣れてください。

前輪ブレーキと後輪ブレーキに対しての左右のブレーキレバーの配置に注意してください。右側通行の国では左のブレーキレバーが前輪ブレーキ用で、右が後輪ブレーキ用です。左側通行の国では左ブレーキレバーが後輪ブレーキ用で右ブレーキレバーが前輪ブレーキ用です。自分の自転車のブレーキの配置に慣れてください。あるいは、必要に応じてボルシエセンターまたは自転車専門店に配置の変更を依頼してください。

自分のブレーキシステムに徐々に慣れ、交通のない安全な敷地でブレーキ操作を練習してください。ブレーキコントロールができれば事故を避けることができます。

あなたの自転車には油圧式ディスクブレーキが装備されています。ディスクブレーキはリムブレーキシステムやドラムブレーキシステムに比べより高いブレーキ性能を持っています。ブレーキの制動力に徐々に慣れてください。

! 警告

ディスクブレーキの水の膜。雨天時や水たまりを通り過ぎる等の時にブレーキの制動力が落ちます。制動距離がより長く必要になることを計算に入れて速度に注意してください。

! 警告

ブレーキ制動力の低下。ブレーキパッドとディスクブレーキにワックス、グリス、オイルといった異物があると摩擦係数が下がり、それによってブレーキ制動力が低下します。ブレーキにワックス、グリス、オイルが付かないように注意してください。

! 警告

摩耗したブレーキコンポーネント。ブレーキパッド、ディスクブレーキ、油圧ホースは使用することによって摩耗します。ブレーキパッド、ディスクブレーキ、油圧ホースは定期的に専門の会社に点検してもらい、必要に応じて交換してください。

i 情報

ブレーキコンポーネントの交換にはボルシエの純正部品のみを使用してください。分からない時はボルシエバイクオンラインにお問い合わせください。

ブレーキシステム

i 情報

新しいブレーキパッドは最適な減速値を得るために、よくブレーキをかけこまなくてはなりません。自転車を何度も加速させ、停止するまでブレーキをかけてください。ブレーキに必要な手の力を緩めないでいると、ブレーキが完全にかかりません。

ブレーキシステムの点検

人間工学的により望ましいのはブレーキレバーの幅を手の大きさに調整することです。これについては自転車に取り付けられたブレーキのハンドブックで詳細を調べてください。

⚠ 注意

ディスクブレーキが熱くなる。ディスクブレーキとブレーキキャリパーはブレーキをかけると熱を帯びます。燃える危険があります。ブレーキで作業する場合はブレーキコンポーネントを冷却させてから行ってください。



⚠ 警告

健康を害する液体。ブレーキ液は有毒で刺激性があります。ブレーキチューブを開けないようにしてください。

注意事項

ブレーキ液は自転車の表面とコンポーネントを損傷します。ブレーキチューブを開けないでください。

⚠ 警告

ブレーキコンポーネントに漏れがある。密閉されていない箇所からブレーキ液が流出すると、ブレーキが制動力を失います。ブレーキシステムと油圧ホースに漏れがないかどうか定期的に点検してください。ブレーキ液が流出している場合は、すぐに自転車専門店かポルシェセンターにお問い合わせください。

⚠ 警告

ブレーキパッドが消耗する。消耗したブレーキパッドはブレーキの制動力を損ないます。ディスクブレーキのメタル製パッドホルダーが1 mm 以下に近付いたら、ブレーキのメーカーの説明に従って交換する必要があります。定期的にブレーキパッドの摩耗を点検し、必要な場合はブレーキメーカーの指示に従って交換してください。

⚠ 警告

汚れたブレーキパッドとディスクブレーキ。ブレーキパッドとディスクブレーキに汚れがあると摩擦係数が低下し、それによってブレーキの制動力が落ちます。ブレーキパッドが汚れたら、すぐに交換してください。汚れたディスクブレーキはブレーキクリーナーでクリーニングしてください。

ブレーキの摩耗

走行中にブレーキパッドがディスクに擦れて摩耗したら、次の原因が考えられます：

- ブレーキをまだ十分にかけこんでいない。
- ホイールがフレームまたはフロントフォークの軸受けにまっすぐに入っていない。ホイールを改めてまっすぐにしてください。
- ホイールが軸受けにフィットしていない。クイックリリース並びにハブ結合ネジを点検してください。

⚠ 警告

ブレーキの摩耗。連続的にディスクブレーキを摩耗すると、ブレーキシステムがヒートアップし、それによってブレーキの制動力が落ちることがあります。新しいブレーキパッドは十分かけこんでください。ホイールの座りと固定を点検してください。

注意事項

ヒートアップによるブレーキシステム部品の損傷リスク。新しいブレーキパッドはブレーキをよくかけこんでください。ホイールの座りと固定を点検してください。

駆動システム

踏み込み動作を車輪の前進運動に変換する自転車の全てのコンポーネントを駆動システムと呼びます。これは特にインナーベアリング、クランクアーム、ペダル、スプロケットカセット、後輪ハブ、チェーンまたはプーリーおよびベルトです。

ギアを助けに歯車比を適応させ、それによってクランク回転につき車輪をどのくらい展開させるかを調整します。スプロケットでは小さなフロントチェーンリングとリアスプロケットの歯車比を小さくします。これは上り坂に適しています。歯車比を大きくする場合は、大きいフロントチェーンリングとスプロケットカセット上の中位から小さいスプロケットを使います。この歯車比はやや速いスピードで平坦な道を走る時に適しています。ハブギアでは相応のギア表示のある数段階に分かれた歯車比が可能です。

スプロケット

スプロケットではチェーンの斜めの位置に気をつけてください。小さいチェーンリングと小さいスプロケット、または大きなチェーンリングと大きなスプロケット、という組み合わせは避けるようにしてください。これはチェーンまたはチェーンリングとスプロケットの寿命を短くします。

警告

チェーンとチェーンリング。 幅広のレッグウェアはチェーンまたはチェーンリングに引っかかり、転倒の原因となることがあります。脚部の部分が狭いレッグウェアを着用してください。パンツベルトまたはクリップを使ってください。

警告

駆動システムのパワーが突然落ちる。 圧力をかけながらギアチェンジをするとチェーンがずれたり、チェーンリングから飛び出してしまうことがあります。駆動システムのパワーが落ちると転倒の原因になることがあります。ギアチェンジの際には大きな力を入れずに踏んでください。

ギアチェンジ

シマノ製スプロケットの場合、シフトレバーが、左のハンドル側にチェーンリング・フロントディレイラー用の操作レバー、そして右のハンドル側にリアディレイラー用の操作レバーとしてそれぞれ取り付けられています。

シマノ製ラビッドファイヤーのシフトレバーは、各シフトレバーに大小レバーがそれぞれ一つずつ付いた構造になっています。この大きなシフトレバーは大きい方のチェーンリングまたはスプロケットに変更するためのもので、小さいレバーは小さい方のチェーンリングまたはスプロケットにそれぞれ変更します。



駆動システム

通常大きいレバーは親指で操作します。小さい方、つまりハンドルの前に横にあるレバーは人差し指または親指で操作します [シマノシステム、ツーウェイリリース付]。

警告

公道での不注意。ギアチェンジを公道で練習すると交通上の出来事や危険によって気が散り、転倒や事故に繋がることがあります。ギアチェンジは交通のない所で練習してください。

警告

突然駆動システムのパワーが落ちる。圧力をかけながらギアチェンジをするとチェーンがずれたり、チェーンリングから飛び出てしまうことがあります。駆動システムのパワーが落ちると転倒の原因になることがあります。ギアチェンジの際には大きな力を入れずに走行を続けてください。



注意事項

圧力をかけながら切替えるとチェーンとフレームが損傷する危険があります。チェーンが外れるとフロントチェーンリングとチェーンステイの間でチェーンの噛み込み [チェーンサック] が起こり、フレームが損傷することがあります。ギアチェンジの際は大きな力を加えないで走行を続けてください。

注意事項

激しい消耗によるチェーン損傷の危険。チェーンが極端に斜めに動く歯車比は避けてください。

スプロケットの整備と調整

初期の頃の運転時間が過ぎると、ギアのボデーケーブルが多少伸びることがあります。それによってギアチェンジの精度が落ちます。ギアを調整し直さなければならないかもしれません。その場合は熟練した自転車専門工に調整を依頼してください。万が一自分で調整したい場合は、ギアメーカーの詳細取扱説明書を参照してください。分からない場合はボルシェバイクホットラインにお問い合わせください。

リアディレイラーの微調整のためにはシフトレバーにある調整ネジを使用してください。

最初の頃の調整作業の際には、伸びを補正するために調整ネジを反時計回りの方向に回してください。少しずつ調整ネジで適合させてください。一段階大きいギアに入れ、また戻し、その調整を点検してください。それが機能したら、スプロケットの全てのギアを両方向に入れてみてください。

チェーンがフロントディレイラーのケージによってサイドのガイドメタル板を擦ることなく動けるようにフロントディレイラーを調整してください。チェーンの斜めの位置 [チェーンライン] に注意してください。

情報

調整作業は、後輪が自由に回せて全ギアを試すことができるように、適切な組み立て用スタンドで行ってください。

注意事項

リアディレイラーとフロントディレイラーの調整作業には専門知識が必要です。不適切な調整は機器の損傷に繋がることがあります。ギアメーカーの詳細取扱説明書に注意してください。ご質問はボルシェバイクホットラインで承ります。

チェーンラインの調整の他に、リアディレイラーとフロントディレイラーでリミットストップの調整ができます。これはチェーンがリアスプロケットカセットまたはフロントチェーンリングから飛び出すのを防ぎます。

警告

リミットストップの不適切な調整。リミットストップを不適切に調整するとチェーンが飛び出て、チェーンリングとチェーンステイの間に噛み込む、あるいはスプロケットカセットとスポークの間にひっかかってしまうことがあります。それによって自転車の駆動システムに支障をきたしたり、後輪がブロックすることがあります。転倒の危険があります。リミットストップの調整は十分注意して行うか、自転車専門店に依頼してください。

注意事項

チェーンが取れると前方のチェーンリングとチェーンステイの間にチェーンの噛み込み [チェーンサック] が起こり、フレームを損傷することがあります。リミットストップの調整は十分注意して行うか、自転車専門店に依頼してください。

リアディレイラーのリミットストップを調整するためには、右の小さなシフトレバーで最大のギア、つまり最小のリアスプロケットに入れてください。それから後ろからリアディレイラーを見てください。リアディレイラーのケージと両方のガイドローラーが最小のスプロケットの下になければなりません。

位置を最小のスプロケットにするには、両リミットストップネジの上方のネジを使ってください

リミットストップの調整は最大のスプロケットで順々に行ってください。ストップの調整には下方のリミットストップネジを使ってください。チェーンが最大のスプロケットからスポークに飛ばないように確実にしてください。

駆動システム

警告

不適切に調整されたギア。ギアチェンジが不適切に調整されていると公道で交通上の突発的な出来事やまさかの危険に注意が行かず、転倒や事故に繋がることがあります。交通がない所で試運転をし、ギア調整を点検してください。

フロントディレイルの調整を行うためには、シフトレバーの調整ネジでフロントディレイルの解除されたチェーンラインを調整してください。

フロントディレイルの場合も2個のリミットストップネジがあります。小さいチェーンリングにギアを入れ、フロントディレイルを内側のリミットストップネジで調整して、チェーンが最小のチェーンリングから落ちないようにしてください。最大のチェーンリングにギアを入れ、外側のリミットストップネジを使ってフロントディレイルを調整してください。チェーンがチェーンリングから外側に飛び出さないようにしてください。



情報

リアディレイルとフロントディレイルではリミットストップネジの配列が内側と外側のストップポジションに対して異なることがあります。ギアメーカーの詳細使用説明に必ず注意してください。

警告

ギアコンポーネントが曲がる。転倒すると、リアディレイル、フォークエンドまたはフロントディレイルが曲がってしまうことがあり、安全な運転ができなくなります。損傷したギアコンポーネントを自転車専門店にて交換してください。

警告

不適切に調整されたフロントディレイル。フロントディレイルの調整は大変微妙です。不適切に調整するとチェーンが飛び出してしまいます。それによって自転車が動かなくなり、転倒の危険にさらされます。フロントディレイルの調整は細心の注意を払いながら行うか自転車専門店に依頼してください。

ハブギア

ハブギアの長所はシェル構造であることです。大抵はグリップシフトで全ギアの切り替えを行います。切り替えは親指シフトレバーで行います。大きなシフトレバーを親指で操作し、軽い方のギアに変更します。小さいシフトレバーは人差し指で操作し、より重いギアに切り替えます。

情報

モデルとメーカーによってレバーの配置に違いがあることがあります。ギアメーカーの添付取扱説明書をよくお読みください。

情報

ハブギアがあるため、力を入れずに、あるいはペダルを踏み込むことなくギアチェンジをすることができます。ギアチェンジはノイズが立つことなく行うように注意してください。ギアメーカーの添付取扱説明書をよくお読みください。



警告

公道での不注意。ギアチェンジを公道で練習すると交通上の突発的な出来事やまさかの危険に注意が行かず、転倒や事故の原因になります。練習は交通のない所で行ってください。

ハブギアの調整

ハブギアにおいては調整作業あるいは再調整作業はほとんど必要ありません。普通、調整はハブにある2つのマーキングだけで行い、シフトレバーの調整ネジで位置決めを行います。

情報

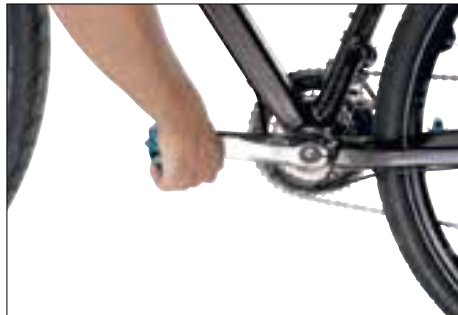
ハブギアの調整に関してはギアメーカーの運転取扱説明書に注意してください。

インナーベアリングとクランク駆動部

インナーベアリングは普通クランク軸とクランクユニットを受けるカプセル型のベアリングです。このベアリングは、汚れ、水または泥の浸入を防ぎ、メンテナンスが不要です。ボトムブラケットケースの中でインナーベアリングがフィットしているかどうかは定期的に点検してください。

両クランクアームがフィットしているかどうかは揺すって点検してください。ガタつきは禁物です。

駆動システム



警告

クランク駆動部のクリアランス。クランク駆動部にガタつきがある場合はクランクセットの位置に損傷があります。破損の危険があります。クランクアームを新たに締めることが必要な場合があります。どうしても問題が解決されない場合は自転車専門店あるいはボルシェバイクホットラインにお問い合わせください。

チェーン

チェーンの寿命はチェーンの手入れ、つまりクリーニングとグリス塗りと関係があります。ベースクリーニングを雑巾で行ってください。チェーンオイルが均一に広がるようにクランクを回しながらチェーンを垂らし込んでください。クランクを何度も回転させると、チェーンオイルが均一に広がるので、オイルがチェーンに浸み込むようにチェーンを数分間添え置きます。余計なグリスを清潔な布で拭き取ります。

情報

グリスは走行中に周囲を汚す。環境保護の観点から生分解性のグリスを使用してください。オイルが垂れるので下敷きを留意してください。

警告

ブレーキの制動力が低下する。ブレーキパッドとディスクブレーキにグリスが付くと摩擦係数が低くなり、それによってブレーキの制動力が低下します。グリスがブレーキに付かないように注意してください。



チェーンも消耗品なので定期的にクリーニングしてください。普通チェーンの寿命は走行距離約 800-2,500 km か、走行時間 40-125 時間です。チェーンを定期的に交換するとチェーンリングとスプロケットの寿命が伸びます。チェーンの状態を簡単に点検するためには最大のフロントチェーンリングにギアを入れ、チェーンを親指と人差し指でチェーンリングから引っ張ります。チェーンを上上げる時に重ねれば、かなり伸びているということなので、新しくしてください。チェーンの状態を正確に点検するためには自転車専門店に特殊工具で調査を依頼してしてください。

情報

チェーンの交換にはボルシェの純正部品とスプロケットに合うチェーンだけを使用してください。

警告

突然駆動システムのパワーが落ちる。チェーンが消耗していると突然切れたり飛び出したりすることがあります。駆動システムのパワーが落ちると転倒の原因になることがあります。定期的にチェーンの状態を点検し、必要に応じてチェーンを交換してください。



ベルト駆動システム

ベルト駆動システムはチェーン駆動システムと比較すると保守が不要です。つまり、オイルやグリスを塗ったりする必要がありません。

ベルト交換の場合は次のようにしてください：

- 右のシートステイの留め具をそれに合う六角レンチ M4 で開けてください。
- 偏心インナーベアリングのクランプをそれに合う六角レンチ M5 で開けてください。インナーベアリングを反時計回りに回し、ベルトを緩めます。
- ベルトを前方のプーリーから引っ張ってください。
- 今度はベルトを開いているシートステイの中に通してください。
- クランクをチェーンステイと並行になるように回し、ベルトを前方のプーリー経由で引いてください。

駆動システム

- 新しいベルトを取り付けるためには逆の手順で行ってください。まずベルトを前方のプーリー経由でインナーベアリングケースの上になるように置いてください。
- ベルトを開いているシートステイに通し、後方プーリーの上に置いてください。
- シートステイキーのネジをトルク 2.7 Nm で締めてください。
- ベルトを前方プーリーの上に置いてください。ベルトは必ず張らないようにし、必要に応じて偏心インナーベアリングをリアフォーク方向に引き続き回してください。
- ベルトが確実に両方のプーリーの中心に来るようにしてください。ベルトが張るまで偏心インナーベアリングを回し、トルク 5.5 Nm で固く締めてください。ベルトをベルト駆動システムの中心で 20 から 45 N まで [2 から 4.5 kg まで] の手の力で押してください。ベルトをその際 10 mm ほど中に押してください。この手順をいろいろなポイントで繰り返し、その度にクランクを 45° ずつ回してください。

- ベルトに適切な張力がない場合は、偏心インナーベアリングを回して調整してください。

注意事項

ベルトの張力が適切でないと損傷する危険が生じます。ベルトの張力が低すぎるとベルトは歯車プーリー経由でずれてしまい、損傷することがあります。張力が高すぎるとベアリングが損傷し、駆動システムの動きが重くなります。ベルトの交換と調整は自転車専門店で依頼してください。



警告

突然駆動システムのパワーが落ちる。ベルトの張力が低すぎるとベルトがプーリーを経てずれることがあります。パワーと駆動システムが落ち、転倒の原因になります。ベルトの交換と調整は自転車専門店で依頼してください。

情報

ベルトの調整はここに説明されている方法と違うことがあります。ベルトメーカーの説明書に注意してください。

注意事項

ベルト損傷の危険。ベルトをプーリーに力づくで、または尖った工具で押し付けしないでください。ベルトが回らなくなります。ベルトを曲げたり強く押しついたりしないでください。ベルトの取り扱いについての情報はベルトメーカーにお問い合わせください。

ホイールとタイヤ

ホイールは、ハブ、スポーク、リムバンド、リムで構成されています。タイヤはチューブの空気圧を利用してリム上にはめられています。チューブを尖った角があるリムの内側から、またはスポークニップルから保護するために、リムバンドが取り付けられています。

乗り始めてから一定の時間が経過するとスポークとニップルはフィットします。ホイールの回転を点検してください。ホイールの回転が歪んでいたら、これを自転車専門店にて点検してもらい、必要に応じて中心化させるか、ボルシエセンターまたはボルシェバイクオンラインにお問い合わせください。

タイヤ交換が必要な場合は、純正部品、または全く同じサイズのタイヤを使用してください。タイヤのサイズはタイヤの側面に記載されており、ミリメートル規格表示 [例：52-622; 空気を入れた状態の幅、[内側] 直径 622 mm] またはインチ表示 [例：28 x 2.0] で表示されています。



警告

ハンドルを切る時に突然不具合が起こる。 シリーズに合ったサイズより大きいタイヤを使用するとハンドルを切る時に足が前輪と触れることがあります。転倒する危険があります。シリーズに合ったサイズのタイヤのみを取り付けてください。

警告

不適切なタイヤサイズによる過負荷。 シリーズに合った、サイズより大きいタイヤを使用するとフレームとフロントフォークに過剰な負荷がかかります。破損の危険があります。シリーズに合ったサイズのタイヤのみを取り付けてください。

注意事項

シリーズに合ったサイズより大きいタイヤはフレームとフロントフォークを擦り、ラッカーを損傷させることがあります。 シリーズに合ったサイズのタイヤのみを取り付けてください。

タイヤの空気圧はパンクの直接の原因になることがあります [例：空気圧が低すぎる状態で縁石の上を通過する場合]。また転がり抵抗、地面吸着性、スプリングコンフォートにも影響します。メーカー推奨の空気圧は通常タイヤ側面または型式表示に記載されています。

注意事項

道路上の凹凸や突起物、障害物によるタイヤの損傷の危険。 タイヤの状態を定期的に点検してください。

警告

タイヤ圧が急に落ちる。 タイヤ圧が高すぎるとタイヤが破裂したり、リムから飛び出すことがあります。転倒の危険があります。常に指定のタイヤ圧で走行してください。

警告

タイヤの地面吸着性が低下。 走り過ぎて溝が減ったタイヤは地面吸着性が無くなります。タイヤを交換してください。

警告

太陽の陽射しやその他の環境による影響。 タイヤが脆くなったり、破裂したりします。転倒の危険があります。脆くなったタイヤは交換してください。

チューブに空気を充填し、それに栓をするためには普通3つのバルブを使います。

- 多くの自転車の種類ではフレンチバルブ/プレスタバルブが使用されており、高圧用に設計されている。空気を充填、または、空気を抜くためにはローレットネジでバルブを開ける。充填後は空気が漏れないようにローレットネジを必ず再び締める。

- フレンチバルブ/カーバルブ。車用バルブの使用。

- 多くはマウンテンバイクに使われる。ダンロップバルブ/ウッズバルブ。自転車に使われるクラシックタイプ。

バルブはプラスチック製キャップによって汚れの浸入から保護されています。

ボルシェバイクにはプレスタバルブが装備されています。

情報

指定のタイヤ圧で走行し、これを週一回点検してください。タイヤの最大許容空気圧に注意してください。リムメーカーの書類に記載されています。

ホイールとタイヤ



ホイール固定

ホイールはクイックリリースまたはクイックアクスルまたはナット [ボルシェバイク後輪] によってフレームとフロントフォークに固定されています。

クイックリリース付ホイールを工具を使わずに固定することについては P24 の「クイックリリースの操作」の章を参照してください。

ホイールがナット [バイク] で固定される場合、そのために必要な工具 [フォークレンチ SW 15] を使用してください。ナットを 30-45 Nm で締めてください。

また、ハブギアの場合、いわゆる “Non-turn Washer” というハブの捻れ止め安全部品が適切に使われていることに注意してください。タイプと設計によって詳しくはハブメーカーの取扱説明書をご覧ください。



警告

ホイールが緩む。 ホイールが緩んでいると転倒や事故に繋がることがあります。毎回走行前にホイールが固定しているかどうか点検してください。

タイヤのパンク

タイヤのパンクは自転車に最も頻繁に起こるトラブルです。交換チューブまたは修理キットを装備していれば、パンクはたいてい自力で直せます。

正しい車輪の取り付けと取り外しについては、P24「クイックリリースの操作」の章を読み、さらに P48 の「ホイールの固定」の注意事項に注意してください。

ハブギア [バイク] が装備されている場合は、まずフレームから車輪を完全に取り出すためにシフトケーブルをはずしてください。

あなたの自転車がベルト駆動システムを搭載していれば、後輪を 15 のフォークレンチで取り外してください。ベルトはこの時緩みます。そしてシフトケーブルを Alfine [アルフィーネ] の内装ハブギアから外してください。

これで車輪をフレームから取り出せます。取り出す時にベルトを損傷しないように気を付けて行ってください。



組み立ての時は逆の手順で行ってください。車輪の組み立てにはレンチを使ってください。ベルトの張りを調べてください。詳細は P43 の「ベルトの駆動システム」の章を参照してください。

スプロケット付ボルシェバイク RX/RS の場合、後輪を取り外すためにスプロケットの最小の歯車にシフトさせます。

ホイールを軽く下に引っ張り出すためにリアディレイラーを後ろに引いてください。



タイヤのパンク

⚠ 注意

ブレーキコンポーネントが熱くなる。ディスクブレーキとブレーキキャリパーがブレーキをかけると熱くなります。燃える危険があります。ブレーキコンポーネントが冷却するのを待ってからホイールを取り外してください。

注意事項

ホイール取り外し時にブレーキシステムが損傷する危険。ブレーキレバーを絶対に動かさないでください。ディスクブレーキ用のストッパーをブレーキキャリパーに取り付けてください。



i 情報

ブレーキメーカーの取扱説明書に注意してください。

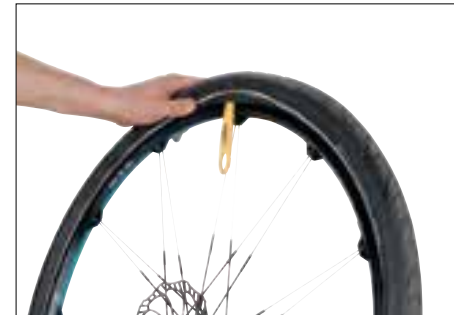
タイヤの取り外し

タイヤを取り外すためにはバルブを開けてチューブの空気を抜いてください。リム側面からチューブを少しずつ押し出してタイヤを緩めてください。

タイヤを取り外すためにはタイヤレバーが必要です。タイヤレバーでタイヤをリムエッジの上まで持ち上げます。2本目のタイヤレバーをタイヤの下に差し込み、タイヤをリムエッジの上、車輪全体の上に引き起こします。

これでチューブを取り出し、交換または修理することができます。タイヤを交換したい場合はたいていもう片方のタイヤ側面を簡単に手でリムエッジの上上げることができます。パンクの場合はタイヤ内側に尖ったものがあるかどうか点検して、必要に応じてタイヤを交換してください。さらにリムベルトの座りを点検してください。尖った角が全て被われていなければなりません。リムベルトが損傷した場合は交換してください。

タイヤの取り外しの際には異物や汚れがタイヤ内部に入り、新たなパンクに繋がることがあります。そのようなことが起こらないよう注意してください。



タイヤの取り付け

リムエッジの上に手でタイヤ側面を押しながら、全体が両方のリムエッジの間のリムの底に収まるようにします。タイヤをリムエッジの上になかなか押せない場合は、タイヤレバーを利用してください。

チューブのバルブをバルブの穴に差し込んでください。皺がなくなる程度にチューブに軽く空気を入れて、タイヤの中に入れてください。もう片方のタイヤ側面をリムエッジの上に引き上げてください。その際、チューブをリムとタイヤの間に挟まないようにしてください。損傷することがあります。

タイヤのパンク

タイヤを両手でリムエッジの上に押し出せない場合はタイヤレバーを使ってください。

バルブの位置を点検してください。ホイール内で中心から外に向かって半径に沿ってセットされ、先端がハブの方向に向いていなければなりません。バルブを斜めにセットすると外れ落ち、急に空気が抜けてしまいます。チューブにあまり空気が入っていない場合は、タイヤにチューブを最適に据えるためにタイヤの周りを両手で馴染ませてください。

バルブとチューブがタイヤ内に確実に入ったら、タイヤをタイヤメーカー指定の空気圧にしてください。タイヤの座りをタイヤ側面のコントロールリングで点検してください。リムに対する間隔が全体を通して同じでなければなりません。

車輪の取り付け

車輪を取り付ける場合は車輪の取り外しと逆の手順で行ってください。車輪はフォーク脚の中心で、フレームのリアフォークに取り付けます。

クイックリリース、固定ネジ、捻れ止めストッパーが正しく、フロントフォークストッパーが正確な位置にセットされているかどうか注意してください。P24の「クイックリリースの操作」の章に注意してください。



ブレーキパッドの間のディスクブレーキの正しい取り付けに注意してください。パッドとディスクブレーキの隙間の大きさを点検してください。

さらにベルト駆動システムとハブギアの正しい組み立てと調整に注意してください。



警告

ブレーキ機能。 取り付けが不適切だったり、オイルやグリスによってディスクブレーキとブレーキパッドが汚れるとブレーキ機能が損なわれます。ブレーキテストを行ってください。

ヘッドセット

ヘッドセットベアリングとも呼ばれるヘッドセットは、フロントフォークがヘッドチューブの中で回転できるように保たれています。ヘッドセットには運転中大きな力が働くので、それによってベアリングが緩むことがあります。

警告

ヘッドセットが緩む。 ヘッドセットが緩むとベアリングとフロントフォークにかかる負荷が大きくなり、破損に繋がることがあります。ヘッドセットのクリアランス [遊び] を定期的に点検してください。

ヘッドセットのクリアランスを調整するためには指を上部のベアリングシャーレの周りに置きます。前輪ブレーキをかけ、自転車を強く前後に押します。ベアリングに遊びがあれば、上部シャーレは下部に向かってずれます。

ヘッドセットの動きの滑らかさを点検するためには、前方のトライアングルフレームで前輪を持ち上げ、左右にハンドルを切ります。この動きが極めて軽くなければなりません。前輪を中心に立て、自転車を軽く横に傾けてください。前輪は自ずと中心から動かなくてはなりません。



情報

ヘッドセットの調整は普通専門家の仕事です。 特殊工具が必要になります。自転車専門店で依頼してください。

警告

ステムが緩む。 ステムが緩むと転倒に繋がることがあります。前輪を足で挟み込みハンドルを回転させて、ステムがしっかり固定されているかどうか点検してください。この時ハンドルは捻れないようにしてください。

ヘッドセット

アヘッド式ヘッドセットの調整

ポルシェの自転車には全てアヘッド式ヘッドセットが採用されています。アヘッド式ヘッドセットの場合、ステムはステアリングコラムの上であり、これに挟まっています。このステムのクランプがヘッドセットの調整を決めます。

アヘッド式パーツを調整するためには六角レンチ M4/M5、トルクス T25 [バイク RX/RS]、そしてトルクレンチが必要です。

側面のステムクランプを1回から2回、回転させて開けてください。これでヘッドセット部のクリアランスはヘッドセットの蓋にある六角レンチで調整することができます。

ヘッドセットのクリアランスはこの章の始めに表示されている手順で、クリアランスが適切に調整されるまで行います。これには六角レンチ M5 を使ってください。

クリアランスが正しく調整されたら、前輪に対するステムのアライメントを行ってください。ステムのクランプネジを規定のトルクで締めます。



注意事項

ヘッドセットベアリングの調整がきつ過ぎることによる損傷の危険。ヘッドセットのクリアランスは慎重に、そして4分の1回転ずつ調整していきます。絶対にネジを固く締め過ぎないでください。

注意事項

ステムとステアリングコラムに損傷の危険。規定のトルクにご注意ください。

i 情報

ヘッドセットの調整は専門家の仕事。ヘッドセットは自転車専門店で調整を依頼してください。

⚠ 警告

ステムが緩む。ステムが緩むと転倒に繋がることがあります。前輪を足で挟み込みハンドルを回転させて、ステムがしっかり固定されているかどうか点検してください。この時ハンドルは捻れないようにしてください。

サスペンションフォーク

ポルシェバイク RX とバイクにはサスペンションフォークが装備されています。これはどんな路面においても可能な限りの快適性と安全性を提供するためです。路面の凹凸による手首への衝撃が明らかに緩和され、未整備の道またはオフロードへの対応が極めて改善されました。オフロードの凹凸路面による衝撃は通常 [進行方向] 左のフォークレグに内蔵されているスプリングに伝達されます。サスペンションフォークの機能を最大限保障するために、サスペンションフォークを体重や乗り方に合わせる必要があります。

フォーク DT Swiss XMM の調整

スプリング定数の調整は空気圧でスムーズに行われます。左のフォークレグの蓋を外し、エアバルブに合うエアポンプをネジで付けてください。

⚠ 警告

空気圧が高すぎる。サスペンションフォークを絶対にコンプレッサーまたは想定外のエアポンプで充填しないでください。急に高い圧力になってしまうからです。常に特殊な蒸気ポンプまたはサスペンションフォーク用のポンプを使ってください。



フォーク SR Suntour NCX D-Lo の調整

スプリングレートの調整は、スプリングのプリロードで行います。左のフォークレグの蓋を回転させます。全部でクリック約15回分の調整範囲があります。時計回りの方向でスプリングのプリロードを上げ、反時計回りで下げます。

サゲ

フォークはまたがると約10-20%スプリングの力で縮みます。測定にはケーブルバインダーを使うか、あるいは助手の手を借りて自転車に座った時にサスペンションフォークがどれだけ強くスプリングの力で縮むかを測定してもらってください。

i 情報

フォークレグの一つの周りにケーブルバインダーを結ぶ。まずフォークの荷重を取り去ってください。ディップチューブのケーブルバインダーを一番下に押ししてください。それから自転車に乗ってください。その際、フォークがスプリングの力で縮み、ケーブルバインダーと一緒に上へ押されます。このようにして簡単にスプリングの変位を測定することができます。サスペンションフォークが縮み過ぎた場合は、スプリングのプリロードを規定の値まで上げてください。

サスペンションフォーク

走行運転

適当な敷地を見つけてサスペンションフォークの調整を点検してください。この際、フォークは常に変位の範囲全体にわたって作用させてください。極端な衝撃の場合にのみフォークを完全にストロークさせてください。

特別機能 “Lock Out”

進行方向右のフォークレグにいわゆる “Lock Out” 機能があります。これを使うとサスペンションフォークをロックすることができます。つまり、障害物を走り越える時にフォークが効かなくなります。この機能は凹凸の少ない滑らかな路面か上り坂をゆっくり走行する時のみに利用してください。

警告

“Lock Out” 機能を下り坂で使うと転倒の危険があります。“Lock Out” 機能は下り坂や知らない敷地での走行中には解除するということを常に覚えておいてください。突然遭遇する穴または凹凸が「ロックされた」フォークに大きな負担を与えるからです。さらに衝撃がそのまま手首に伝わるので、コントロールを失い転倒に繋がります。



ダンピング調整【フォーク DT Swiss XMM のみ】

サスペンションフォークで最適なサグに調整したら、今度はシフトケーブルのリバウンドのセットアップを開始します。つまりフォークのリバウンドを調整するのです。ダンピングが小さすぎるとすぐにリバウンドしてしまいます。ダンピングを大きくすればするほどフォークはゆっくりとリバウンドします。ダンピングがきつ過ぎると、フォークが急に互いにぶつかり合っただけで沈んでしまいます。十分速くスプリング力を消すことができなくなるからです。

情報

サスペンションフォークのメーカーは広範囲な取扱説明書を提供しています。そこで調整の可能性の詳細を見ることができます。これを調整作業の前によくお読みになってください。

ライダーに自転車を合わせる

自転車購入の際にすでにあなたに合うフレームサイズを決めたはずですが。

情報

小さいフレームサイズの場合、ペダルを踏むと同時にハンドルを切る際に、足が前輪にぶつからないようにしてください。

自転車をさらに良く体の姿勢に合わせるためには、フレームサイズを合わせる以外に、サドルとステムの位置並びにコックピットの調整を行う、という方法があります。

情報

自転車を自分の希望に合ったものにするためには自転車専門店のサポートを受けてください。

適合した後は毎回必ずP14の「初めての乗車と毎回走行前」に従って簡単なチェックを行い、公道からはずれた場所で自転車の試運転を行ってください。このようにすれば危険を冒すことなく調整をもう一度点検できます。

ネジ結合箇所の適合を行わなければならない場合は、規定のトルク値を絶対を超えないでください！規定トルク値はP80の「推奨トルク」の章、コンポーネントメーカーの取扱説明書とウェブサイトを参照してください。

シートの高さの調整

ペダルに最適に力が伝わるためには、サドルの高さを足の長さに合わせてください。足のふくらみ部分がペダル軸の上方に来るように足をペダルに当ててください。一番下にあるクランクの位置には脚を伸ばさないでください。踵が一番下の位置のペダルに載せてください。脚を伸ばし、腰をまっすぐにしてください。

調整作業の際には自転車走行中に使用する靴または特殊な自転車用シューズを着用してください。



ライダーに自転車を合わせる



サドルの高さを調整するためには、シートポストクランプのクイックリリースを開けてください。

そうするとシートポストの高さを調整できます。

注意事項

サドルチューブでシートポストがガタつく、あるいはきつく固定しているための損傷の危険。きつく固定しているシートポストは決してかぶりで緩めようとしないでください。自転車専門店に問い合わせてください。

i 情報

シートポストを差し込む最小の深さはシートポストまたはフレームに記載されています。もしフレームとシートポストに異なる差し込み深さが規定されている場合は、**大きい方の差し込み深さ**を選択してください。シートポストはトップチューブの上から飛び出ているシートチューブ付フレームの場合、常にトップチューブかシートステイの下方で終わるようにしてください。シートポストの最小の差し込み深さに注意してください。

i 情報

シートポストクランプのクイックリリースが開いている場合は、シートチューブのシートポストは簡単に滑ります。

i 情報

シートポストや部品をカーボンファイバー製フレームに取り付ける時は、グリスや特殊なカーボンペストを使ってください。

シートポストの正しい高さがわかったら、サドルをトップチューブに沿ってまっすぐにしてください。

シートポストをクイックリリースのレバーでクランプし固定してください。特に手に力を入れなくても十分にクランプできます。必要に応じてクイックリリースにある調整ナットでクイックリリースの力を微調整してください。

クイックリリースのクランプについての詳細は P24 の「クイックリリースの操作」の章を参照してください。

サドルを回してみても、サドルがフィットしているかどうかを点検してください。

注意事項

フレームとシートポストの損傷の危険。シートチューブクランプのクイックリリースは固く締めすぎないようにしてください。



サドルから地面がしっかりと触れるかどうか点検してください。もしできない場合は、少なくとも最初はあなたが安全だと感じることができるようにサドルを少し低くしてください。

警告

シートポストの最大に伸びる長さ。シートポストが最大に伸びる長さ [シートポストまたはフレームマーキング] に伸びると、フレームまたはシートポストは破損し、転倒または事故に繋がることがあります。最大に伸びる長さに注意してください。

サドルの高さの他、サドルの傾きとシートポジションを調整することができます。シートポジションを適切に合わせ、ハンドルとの間隔とステップクランクの上部のステップポジションを調節してください。サドルの傾きは、ライダーがサドルからずり落ちることなく、ゆっくりペダルを踏むことができるように可能な限り水平に調整します。

サドルを調整するためにはサドルクランプのネジを開けます。ほんの少しこれを回して開けてください。そうしないとサドルのクランプメカニズムが壊れてしまうからです。これでサドルは、キャリッジで長さ方向にも、また傾きも調節できます。

ライダーに自転車を合わせる



サドルを縦方向に動かし好きなポジションにずらしします。サドルレールのマーキングに注意し、これを越えないようにしてください。

サドルを水平にします。この作業には水準器が役に立ちます。

今度は再びシートクランプのネジをトルクレンチでしっかり締めます。その際サドルは回転しないようにしてください。サドルを上下に回してみ、サドルがフィットしていることを確認してください。



i 情報

ネジの締めつけ箇所が、取扱説明書に記載されている値、またはメーカーの指定値通りになっているか、トルクレンチを使って定期的に点検してください。ネジシートフレームを直線範囲だけでクランプしてください。レールにあるマーキングに注意してください。カーボンフレームの場合は特殊なカーボン組み立て用ペーストを使ってください。

ハンドルとステムの調整

自転車のコックピットをあなたの希望通りに調整することができます。

警告

ハンドルとステムの変更。ハンドルとステムは安全上重要な自転車部品です。それに変更を加えると安全を損なうことがあります。調整作業で不確かなことがあった場合は、自転車専門店にお問い合わせください。ポルシェが発売している純正部品のみを使用してください。ステム一体型のハンドルは各メーカーによって発売されていることにご注意ください。

警告

ネジの締めが不十分。ハンドルとステムでネジを十分締めていないと走行中に緩んでしまい、転倒や事故に繋がる可能性があります。P80の「推奨トルク」の章またはコンポーネントメーカーやそのウェブサイトの説明に注意してください。

注意事項

ネジを強く締め過ぎたことで生じるハンドルとステムの破損の危険。P80の「推奨トルク」の章またはコンポーネントメーカーやそのウェブサイトの説明に注意してください。

ステム

ステムの高さをヘッドセットとステムの間にあるスペーサーで調整できます。

ステムの高さを変更したい時は、まずステムクランプネジを開けてください。六角ネジM5をヘッドセットキャップから外し、取り出します。これでステムをステアリングコラムから引き出すことができます。ステムをさらに下に置くために、ステムの下にあるスペーサーを取り出してください。常に少なくとも一つのスペーサーがステムとヘッドセットの間にあるように注意してください。またスペーサーの位置を入れ替えることでヘッドセットの高さを変えることができます。



ライダーに自転車を合わせる

ステムを戻すためには、ステムを再びステアリングコラムに差し込みます。先に取り出したスペーサーを取り、ステムの上からステアリングコラムに差し込みます。

これはステアリングコラムを短くすることなく、ヘッドセットのクリアランスを適切に調整するために必要です。

ヘッドセットキャップのネジを再び締めて、P54の「アヘッド式ヘッドセット」の章にあるような手順で行ってください。

警告

ヘッドセットのクリアランス。ヘッドセットのクリアランスはヘッドセット、ステムそしてステアリングコラムに損傷をきたすことがあります。事故の危険があります。常に納品の際に取り外した数のスペーサーを使用してください。

警告

ステムのクランプ。ステム内のクランプが不十分だと転倒の危険があります。ステムの調整作業は力ずくで行わないでください。



警告

ネジの締めが不十分。ステムのネジがしっかり締まっていなると走行中に緩み、転倒や事故に繋がることがあります。P80の「推奨トルク」の章またはコンポーネントメーカーやそのウェブサイトの説明に注意してください。

情報

ステムの調整作業は自転車専門店で依頼してください。

ハンドル

ハンドルの傾きを自分に合ったグリップポジションに適合させることができます。それにはハンドルクランプネジ[六角ネジM4/トルクスT25]を緩めます。

ステムのハンドルを回し、あなたの希望通りにアライメントをします。あなたの手首が楽で、外側に強く捻れ過ぎないようにしてください。

適切なグリップポジションが見つかったら、ハンドルクランプのネジを規定のトルクで再び締めます。ハンドルはステムクランプの中心に位置することに注意してください。ハンドルをステムと反対に捻ってみて、クランプの締め具合を点検してください。

情報

クランプ面が清潔でグリスが付着していないことに注意してください。必要に応じてクランプ力を低下させるためにカーボンペーストを使用してください。



ブレーキとグリップシフト

ブレーキレバーとシフトレバーをハンドル部であなたのグリップポジションに適合させることができます。クランプにある六角ネジあるいはトルクスネジを開けます。ブレーキレバーまたはシフトレバーをあなたが好きなポジションに回し、クランプネジを規定のトルクで再び強く締めます。さらにレバーのハンドルに対する間隔を調整して、レバーをあなたの好きな指のポジションに適合させます。このためにはレバーの六角ネジを使ってください。希望のグリップ幅のポジションが見つかったら、間隔がまだ十分あるか点検して、ブレーキレバーがハンドルに触れることなく、ブレーキパッドがディスクブレーキの隣に位置するようにしてください。



警告

ブレーキ力が不十分。ブレーキレバーをハンドルまで引くことができると、ブレーキをフルに効かせることができません。ブレーキ力がフルに効くようにブレーキレバーを調整してください。

情報

ブレーキメーカーの案内に注意してください。

荷物の輸送/子供の同乗

あなたの自転車の許容積載重量に関してはP27の「規定に従った使用」の章に注意してください。許容積載重量とは普通、荷物を含めた全ての重量の合計です。荷物を運ぶときはこの重量を超えないでください。

もし荷台を自転車に固定する場合は、荷台がDIN 14872の規格に相応するものであるように注意してください。

さらにこういった輸送用の荷台を固定するための取り付け部品が発売されているかどうか注意してください。メーカーの記載事項に注意してください。



警告

荷物を乗せた走行。自転車の重量が過剰だと安全のために重要な部品が故障したり、損傷したりすることがあります。荷物を積む時には乗り方が変わり、制動距離が長くなります。絶対に許容積載重量 120 kg を越えることがないように注意してください。タイヤの空気圧は自転車の総重量に適合させてください。荷物を乗せた自転車走行を交通のない敷地で練習してください。乗り方を変えて、それに合った走行をしてください。



警告

チャイルドシートと子供用牽引車。ポルシェの自転車はチャイルドシートの取り付けや子供用牽引車を伴う走行を禁止しています。チャイルドシートと子供用牽引車を使用しないでください。

車による自転車の輸送

自転車を運ぶ最も良い方法は車のラゲッジコンパートメントで輸送する方法です。ここなら外部の影響も受けず、汚れからも保護されます。ラゲッジコンパートメントが汚れないよう注意してください。必要に応じて自転車の下に何か敷いてください。車の内部の固定システムを使用して自転車を固定することもできます。

自転車は駆動システム側を下にして横にしないよう注意してください。それによって例えばリアディレイラーが曲がってしまうことがあるからです。さらにディスクブレーキが損傷しないように保護してください。ポードンケーブルやブレーキチューブを曲げないように注意してください。

自転車をラゲッジコンパートメントで輸送しない場合は、自転車輸送のためのポルシェキャリアシステムが提供されています。

ルーフまたは牽引車のカップリングの取り付けという2つの方法があります。



警告

ラゲッジコンパートメント内の自転車が安全に固定されていない。ブレーキ時、方向転換または事故の時にラゲッジコンパートメントの自転車がずれ、乗車している人の危険になることがあります。自転車は必ず車のラゲッジコンパートメントに安全に固定してください。



警告

荷物が安全に固定されていない。車の外部で自転車を運ぶ場合、部品 [工具、荷物バッグ等] がしっかりと固定されていないと走行中に外れて事故の原因になることがあります。輸送前に自転車の緩んだ部品を安全な状態にするか、取り外してください。



警告

見えないフレームの損傷。特にカーボンフレームのクランプの場合、目に見えない損傷が起こり、突然部品が壊れてしまうことがあります。これはポルシェキャリアシステムでも同じことです。あなたの自転車に合ったクランプ付キャリアシステムを使用してください。クランプする際、フレームに過度な負荷を与えないようにしてください。



警告

車の制限。照明装置とナンバー。積み荷が車から飛び出していたり、車の照明が隠れていると事故に繋がることがあります。自転車が車のサイドに飛び出ないように、また車の照明装置とナンバーが隠れないように、キャリアシステムに荷物を積んでください。

注意事項

フレームチューブが損傷し修理不可能な状態になる危険。極太のフレームチューブをクランプする場合にキャリアシステムのクランプがそれ用に設計されていることに注意してください。

注意事項

不適切なキャリアシステムによって生じる、ハンドル、ステム、サドル、シートポスト損傷の危険。自転車を逆さ、つまりハンドルとサドルを下向きに取り付けるキャリアシステムを使用してください。クランクアームに固定するようなキャリアシステムは使わないでください。

車による自転車の輸送

自転車キャリアの購入の際に居住国の安全規格 [例えば GS 記号] を守ることに注意してください。

ドイツではキャリアは S 22 StVZO に従った許可マークを付けることが必要です。

自転車キャリアの取扱説明書を読み、許容積載重量および規定最高速度を守ってください。

i 情報

自転車を輸送する際の国別ナンバーの表示義務を調べてください。

! 警告

キャリアシステムに自転車を安全に取り付けない、または不適切に取り付ける。 自転車が安全に取り付けられていない、または不適切に取り付けられていると走行中にキャリアシステムから取れてしまい、重大事故の原因になります。自転車を走行前に毎回点検し、長い旅行中には定期的にしっかりと留まっているかどうかチェックしてください。

! 警告

ブレーキシステムに空気。 油圧式ディスクブレーキが搭載された自転車を逆さにして輸送する場合、空気がブレーキシステムに入り、ブレーキが効かなくなることがあります。油圧式ディスクブレーキ付自転車は逆さにしないで輸送してください。

注意事項

キャリアシステムに積み荷をした状態で車全体の高さに注意しなかったために車が損傷する危険。 車全体の高さを測って、車の中でその高さがはっきり読めるようにしておいてください。パーキングハウス、ガレージ、または地下の駐車場、トンネルに入る時に車全体の高さに注意してください。

注意事項

ホイールを取り外して輸送する場合に自転車 [ブレーキ、リアフォークとフロントフォーク] が損傷する危険。 ディスクブレーキの輸送ストッパーを取り付けてください。リアフォークとフロントフォークのスペーサーを取り付けてください。



飛行機による自転車の輸送

飛行機で旅行中に自転車を輸送する場合は、特殊な自転車ケースが自転車カートンに安全に梱包してください。自転車バッグでは保護が不十分ことがあります。

ホイールには保護するために特殊なホイール用バッグを使ってください。

i 情報

目的地で自転車を正しく取り付けることができるように必要な工具とこの説明書を持参してください。

注意事項

ホイールを取り外して輸送する場合に自転車 [ブレーキ、リアフォークとフロントフォーク] が損傷する危険。 ディスクブレーキの輸送ストッパーを取り付けてください。リアフォークとフロントフォークのスペーサーを取り付けてください。

適切な服装

自転車用ヘルメット

居住国の法規がなくとも必ず自転車用ヘルメットを被ることを推奨します。自転車用ヘルメットを購入する際は、自転車専門店に相談し、ヘルメットがきつ過ぎないように注意してください。

自転車用ヘルメットの購入の際、DIN EN 1078、CPSC、ASTM、SNELL または ANSI といった合格検査規格に注意してください。

自転車用ヘルメットは自転車走行時にのみ被ることが許されています。メーカーの指示に注意してください。

危険

ヘルメットを使わない、ヘルメットが合わない、または適切な安全性がない。ヘルメットを使わないと事故の際、頭部を守ってくれるものがありません。合わないヘルメット、適切な安全性がないヘルメットは事故の際に重傷を負うリスクを高めます。自転車に乗る時は常にヘルメットを使用してください。ヘルメットが正しく合い、ベルトが正しく調整され、閉まっていることを確かめてください。

ヘッドフォン

自転車走行中にヘッドフォンは使わないでください。警報に気がつかないだけでなく、公道の交通から気が散ってしまうからです。あなた自身や他の人たちを危険にさらす事故の原因になります。

メガネ

自転車で走る時、保護用メガネをかけてください。これは太陽、風、また目の中に飛んできて視界を妨げることがある昆虫からもあなたを守ります。

その他

自転車用ヘルメットとメガネの他、例えば自転車用パンツ、トリコー、手袋といった保護服が推奨できます。

パンツに関しては、ピッタリしたもので駆動システムやスボークに入らないものが推奨できます。必要に応じて特殊なクリップまたはベルトを使用してください。

公道で他からよく見られるように目立つカラーを選んでください。リフレクターストライプの付いた服装を着用することもできます。

走行にはペダルを十分に踏むことができるしっかりした靴を履いてください。

危険

不適切な自転車の服装。不適切な服装は公道やオフロードでの怪我のリスクを高めます。常に適切な自転車向きの服装を着用してください。特にヘルメット、メガネそして手袋には気をつけてください。

検査

あなたが自転車を中古で手に入れたとします。どんなものでも使われたものは手入れとメンテナンスが必要です。そうすることによってのみ自転車の機能を保ち、安全な運転が保証されるのです。最初の5時間から15時間、または100 km から300 km の運転が終わると、最初の点検が必要になります。この頃になると、例えばボーデンケーブルが伸びてそれによってギアの精度が落ちるからです。

慣れてきたら、定期的な間隔で自転車専門店に点検を依頼してください。使用する範囲や天候状態によってメンテナンスの間隔は短縮したり、延長したりしてください。

警告

検査と修理が専門的に行われなかった場合。多くの検査と修理は専門家の仕事で、専門知識の他、特殊工具が必要です。専門的に整備・調整作業を行わないと自転車部品の故障を招くことがあります。あなたが、必要な専門知識と例えばトルクレンチのような相応な工具を持っているので作業が自分で行える、と自信がある時に限って自分で行ってください。

情報

コンポーネントの交換にはボルシェが発売する純正部品のみを使ってください。ボルシェ純正部品の詳細はボルシェバイクホットラインにお問い合わせください。P78の「保守およびサービスのタイムプラン」に注意してください。

手入れについて

汚れ、冬の雪面に撒く塩または汗といった外部の影響は、自転車、塗料、コンポーネントに支障をきたすことがあります。従って、全ての部品を定期的にクリーニングしてください。

注意事項

不適切なクリーニングによる自転車損傷の危険。 高圧洗浄機や蒸気洗浄機でクリーニングする際、水がベアリングスベアサーに浸入し、これを傷めることがあります。 高圧洗浄機や蒸気洗浄機は使わないでください。

クリーニングは弱い水シャワーやバケツの水でスポンジを使って行ってください。手でクリーニングすると、塗料の疵や消耗した部品またはその他の欠陥に早期に気がつきます。

クリーニングの後は毎回チェーンにグリスを塗り、広がったボデーケーブルの状態をコントロールしてください。

警告

ヒビ、疵の跡、曲がった部品。 ヒビ、疵の跡、曲がった部品、その他の欠陥は、老朽化と消耗の信号です。部品は突然故障することがあります。損傷した部品をクリーニングする際に注意し、それを即交換してください。分からない場合はポルシェバイクホットラインにお問い合わせください。

注意事項

腐食による損傷の危険。 塗料の損傷はすぐ直してください。

注意事項

クリーニング用アルコールによるチェーンの損傷の危険： チェーンロールのグリスを除去する。チェーンをクリーニング用アルコールの中に入れてください。

警告

ブレーキ機能。 クリーニング剤やチェーンオイルといったディスクブレーキとブレーキパッドの汚れによりブレーキ機能が損なわれることがあります。クリーニング剤とチェーンオイルをブレーキパッドとディスクブレーキに付けないでください。

注意事項

グリス取り、アセトン、塩化メチレン等が含まれた、または溶剤入りの非中性または化学洗浄剤は塗料表面を損傷します。オイルとグリスを塗料表面から取り除いてください。 石油ベースのクリーニング剤で塗料表面のオイルとグリスを取り除いてください。

情報

クリーニング剤に関しては環境にやさしいかどうかという点に注意してください。

情報

最適な手入れをしていても錆びが発生することがあります。これは低品質の証拠というわけではありません。錆びは通常部品をクリーニングすることによって除去することができます。自転車を市販の保存剤や腐食保護剤で手入れしてください。

グリス、クリーニング剤、手入れ剤は使用後、環境を考慮して廃棄してください。これらは通常普通の家庭ゴミ、下水道、また自然の中に捨てることはできません。使用した溶剤の説明書を読んでください。

カーボンの場合の手入れについて

カーボン製部品は水で柔らかい布を使ってクリーニングします。必要ならば食器洗剤を使ってください。

表面研磨のためには車のワックスを使ってください。研磨剤を含んだクレンザーは使わないでください。

擦れやすい箇所 [ボデーケーブル] や石が当たる危険があるダウンチューブ範囲を特殊ホイルを使ってフレームを保護してください。

補足部品はカーボンフレームとカーボンフォークには特殊なネジ山で取り付けてください。発売されていないクランプは使用できません。フレームとフロントフォークの損傷に繋がる場合があります。

盗難防止システム

バイクには CODE-No.com の盗難防止システムが内蔵されています。次のサイトであなたの住所を無料無記名で登録できます：www.CODE-No.com。これは自転車とオーナーに割り当てられた確たるコードです。ボトムブラケット領域のダウンチューブに製造コードを明記したシールがあります。



自転車が盗まれた場合は、www.CODE-No.com のあなたのアカウントに盗難として記してください。そうすると自転車のステータスにインターネットまたはスマートフォンの QR コードで誰もがアクセスできるので転売は不可能になります。



自転車の収納と保管

自転車を定期的にご利用し、それに応じた手入れを行い、短期間収納しておく場合は特に対策を取る必要はありません。ただ、換気のいい乾燥した所に置いておくことが大事です。

長期に保管する場合はタイヤの空気が漏れないよう注意してください。タイヤの損傷を避けるために、相応のスタンドに掛けておいたり、タイヤの空気圧を定期的にコントロールしてください。

自転車は清潔な状態で保管してください。部品を腐食から守るようにしてください。

例えば、シートポストをフレームから取り出し、フレームの湿気を乾燥させてください。シフトチェンジは前を最小チェーンリング、後ろを最小のリアスプロケットに変換してください。このようにすればギアコンポーネントもチェーンも緩みます。

注意事項

自転車を使わない時間を利用して、自転車専門店に総合的な点検整備を依頼してください。

保証規定

メーカー保証の条件

自転車製造業者
ADP Engineering GmbH, Waldstraße 23/B10
63128 Dietzenbach
Germany
[保証人] は、顧客 [被保証人] に対して、顧客の自転車が故障した場合、以下に述べる 2 年間の保証を行います。基準は当該自転車をお買い上げいただいた時と同様の、自転車製造業者における通常の技術状態を提供することです。

保証はボルシェ正規販売店がある国々で販売され、納品される自転車に対してのみ有効です。

保証の有効期間は当該自転車を当該の被保証人に販売したボルシェ正規販売店のオリジナル請求書またはオリジナル領収書の日付をもって開始します。被保証人が自転車を転売する場合は、保証期間が残っていても、保証を受ける権利は転売先の購入者に移行しません。

保証範囲内で故障が生じた場合、保証人は任意に故障を除去 [修理]、または新しい自転車を納品することができます。修理の場合は、保証人は独自の判断で故障部品または保守整備、または交換することができます。故障が修理によっても除去されない場合、または被保証人にさらなる修理を求められない場合は、被保証人は欠陥のない自転車の納品のみを要求することができます。

それ以外の要求に応えることはここでは保証されていません。特に修理中に代替自転車を提供するという代替要求や損害要求なども保証するものではありません。

この保証によって顧客の法的権利、特に製品の欠陥に関する要求、または製造責任要求は制限を受けることはありません。

保証請求の流れ

保証要求は返品された自転車を販売したボルシェ正規販売店においてのみ有効です。

さらに故障した自転車の他に、オリジナル請求書またはオリジナル領収書を提出してください。故障した自転車とオリジナル請求書またはオリジナル領収書が提出されない、またオリジナル請求書またはオリジナル領収書が不完全、読めない、または専門的に見て不適切な場合は、保証人は保証のサービスを拒否することができます。

修理の枠内で取り付けられた、または修理された部品に関しては、自転車の保証期間が満了するまで、相応の保証が受けられます。これは後に納品された自転車に関しても有効です。

保証人が保証のケースで新しい自転車を納品する場合は、解除に関する民法規定の要求事項 §§ 346–348 BGB に従って、返品自転車の利用に対し、被保証人に故障した自転車の返品と相応の代償支払いを要求することができます。故障した自転車の返品並びに新しい自転車の納品は返品される自転車を販売したボルシェ正規販売店においてのみ行われます。

保証請求権除外のケース

運転操作によって生じた消耗は保証の範囲ではありません。

自転車の定期的な保守と修理は保証の範囲ではありません。以下のことによって生じた故障に関しては保証の義務はないものとします；

1. 自転車を不適切に取扱った、または自転車に過剰な負荷をかけた場合、例えばスポーツ競技会や荷物を積み過ぎた場合、または

2. 被保証人自身またはボルシェ正規販売店や自転車専門店以外の第三者によって不適切な自転車の整備および保守を行ったり、不適切に手入れをした場合、または

3. 自転車に保証人が使用を認可していない部品を取り付けた場合、または自転車に保証人が認可していない方法で変更を加えた場合 [特に国の規則に相応させるために行った変更でも、自転車が本来その国を想定して開発され、製造されたのではない場合]、または

4. 被保証人が自転車の運転、取り扱い、手入れについての規定 [例えば取扱説明書] に従わなかった場合、または

5. 自転車を異物の影響、保管や輸送のための備品、またはその他の外部の影響で損傷した場合 [例えば事故、破壊行為]、または

6. 被保証人が故障を速やかに申し出なかった場合、または被保証人が要求にもかかわらず速やかに修理に出さなかった場合。

自転車のフレームナンバーが変更されたり、外されていたり、読めない場合は、保証義務はないものとします。

保証人はこれをもって保証請求権の除外について被保証人に明確に説明したものとします。

保障、消耗、ブレーキパッド

保障

前述の保証人に対するメーカー保証は、瑕疵に関する自転車売主の法的保障とは違うものです。

消耗

自転車の数個の部品は運転操作による消耗を逃れられません。この種の通常の消耗は前述の保証にも瑕疵に関する法的保障の対象にはなりません。消耗の程度は自転車の手入れと保守、利用の仕方 [走行距離、雨天走行、汚れ、塩等] に拠ります。頻繁に野外に置いてある自転車は天候の影響で同じように消耗の程度が高くなります。これは例えば塩分を含んだ海の空気にも言えることです。

消耗部品は定期的な保守と手入れを必要とします。しかしながら、利用の仕方や条件によって、遅かれ早かれ寿命を迎えます。このような部品は消耗の限界に達したら交換が必要です。特に以下の部品です：駆動システムチェーン/ペルト、スプロケットカセット、チェーンリング、プーリー、グリップゴム、リアディレイラー、ギアボデーケーブル、ハンドルとステム、シートポストとサドル、ブレーキパッド、ディスクブレーキ、タイヤを含めたホイール、チューブ、ブレーキチューブ。

ブレーキパッド

ディスクブレーキのブレーキパッドは運転操作によって消耗します。スポーツの目的に使用したり、坂道を走行する場合は、パッドの交換を短い間隔で行う必要があります。パッドの状態を定期的にチェックし、必要に応じてパッドを専門店で交換してください。消耗した部品の使用は危険で、事故に繋がる可能性があります。その他消耗した部品の使用は他の自転車部品の損傷の原因にもなることがあります。

取り付け、調整、取り扱いに関する質問

取り付け、調整、取り扱いに関する質問は自転車専門店またはポルシェバイクホットラインにお問い合わせください。

i 情報

コンポーネントメーカーの取扱説明書にあるサービスと保守の間隔にご注意ください。

ポルシェバイクについての問い合わせ先とサービス

アフターセールスサービス並びにポルシェバイクホットラインについての情報は次のリンクをご覧ください：
www.porsche.com/bike

保守およびサービスのタイムプラン

部品	内容	毎回走行前	月 1 回	年 1 回
タイヤ	空気圧をチェック	x		
タイヤ	溝の高さと側面をチェック		x	
ブレーキ	止まった状態でブレーキをチェック	x		
ブレーキ	パッドとディスクをクリーニング		x	
ブレーキ	パッドの消耗度をチェック		x	
ブレーキ	ブレーキ液を交換 [DOT 液]			x
インナーベアリング	ベアリングのクリアランスをチェック		x	
チェーン	チェックまたはグリスを塗る	x		
チェーン	チェックまたは交換	800 km から		
クランク	チェックまたは締め直す			x
ラッカー/アルマイト	保存	最低半年毎		
ホイール	回転させ、張りをチェック		x	
ハンドル	交換	遅くとも 5 年後		
ハンドルベアリング	ベアリングのクリアランスをチェック		x	
メタル製表面	保存	最低半年毎		
ハブ	ベアリングのクリアランスをチェック		x	
ペダル	ベアリングのクリアランスをチェック		x	
システムペダル	ラッチ機構をクリーニング/グリス塗り		x	
シートポスト/ステム	クランプネジをチェック		x	
リアディレイラー/フロントディレイラー	クリーニング/グリス塗り/再調整		x	
クイックリリース/車輪ネジ	シートをチェック/ネジをチェック	x		
ネジとナット	チェックまたは締め直す		x	
バルブ	座りをチェック	x		
シートポスト	取り外し、新たにグリスを塗る			x
ギアボデーケーブル	取り外しグリスを塗る			x

警告

検査と修理が専門的に行われたい。 サービスと保守のタイムプランで表示されている作業には専門家の知識ならびに特殊工具が必要です。作業は自転車専門店に任せてください。分からない場合はボルシェバイクホットラインにお問い合わせください。絶対に特殊工具なしで作業を行わないでください [例えばトルクレンチ]。

情報

ボルシェバイクの取扱説明書各種最新バージョンは次のリンクでご覧ください：www.porsche.com/bike

推奨トルク*

ボルシェバイク RX

部品	メーカー	説明	トルク
フレーム		インレイ・ドロップアウト	2-3 Nm
		ボトルホルダー	2-3 Nm
		ボアデンケーブル固定用クランプ、ダウンチューブ	2-3 Nm
リアディレイラー	Shimano XTR-RD-M780	固定ネジ	8-10 Nm
		ギアケーブル固定ネジ	6-7 Nm
		ギアローラー	2.5-5 Nm
フロントディレイラー	Shimano XTR-FD-M985	固定用クランプ	5-7 Nm
		ギアケーブル固定ネジ	6-7 Nm
シフトレバー	Shimano XTR-SL-M780	ハンドルクランプの固定ネジ	3 Nm
		ハンドルクランプをシフトレバーに繋ぐ固定ネジ	2.5 Nm
ブレーキレバー	Magura MT8		3 Nm
ブレーキキャリア	Magura MT8		10 Nm
ディスクブレーキ	Magura Storm SL	ハブ6穴固定ネジ	6.2 Nm [CB]
クランク	E13 TRSr double	左クランクアームの固定ネジ	40-48 Nm
ペダル	Crankbrothers Mallet 2		35-40 Nm
カセット	Shimano HG81	ロックリング	30-50 Nm
ステム	Crankbrothers Iodine 2		5 Nm
サドルクランプ	Crankbrothers Cobalt 2		12 Nm
グリップ	Ergon GA1	クランプ	3 Nm

*ここに上げたトルクはメーカー発表のトルクと違うことがあります。常にメーカーの数値を使用してください。必要なトルクは添付の取扱説明書またはメーカーのウェブサイトを参照してください。カーボン部品の取り付けの際は必ずカーボン組み立て用ペーストを使ってください。カーボン製部品用のトルク値は最大値です。このトルクを超えると部品の損傷または部品の欠陥に繋がることがあります。ネジの緩み止めロックタイは中強度のものを使用してください。

ボルシェバイク RS

部品	メーカー	説明	トルク
フレーム		インレイ・ドロップアウト	2-3 Nm
		ボトルホルダー	2-3 Nm
		ボアデンケーブル固定用クランプ、ダウンチューブ	2-3 Nm
リアディレイラー	Shimano XTR-RD-M980	固定用ネジ	8-10 Nm
		ギアケーブルの固定ネジ	6-7 Nm
		ギアローラー	2.5-5 Nm
ディレイラー	Shimano XTR-FD-M985	固定用クランプ	5-7 Nm
		ギアケーブル固定ネジ	6-7 Nm
シフトレバー	Shimano XTR-SL-M980	ハンドルクランプの固定ネジ	3 Nm
		ハンドルクランプとシフトレバーの固定ネジ	2.5 Nm
ブレーキレバー	Magura MT8		3 Nm
ブレーキキャリア	Magura MT8		10 Nm
ディスクブレーキ	Magura Storm SL	ハブ6穴固定ネジ	6.2 Nm [CB]
クランク	Shimano XTR-FC-M980	左クランクアーム調整ネジ	0.7-1.5 Nm
		左クランクアームの固定ネジ	12-14 Nm
ペダル	Crankbrothers Candy 3		35-40 Nm
	VP-615		35-40 Nm
カセット	Shimano M771	ロックリング	30-50 Nm
ステム	Crankbrothers Cobalt 3		5 Nm
サドルクランプ	Crankbrothers Cobalt 11		12 Nm
グリップ	Crankbrothers Cobalt	クランプ	3 Nm

推奨トルク

ボルシェバイク

部品	メーカー	説明	トルク
フレーム		インレイ・ドロップアウト	2-3 Nm
		ボトルホルダー	2-3 Nm
		ボーンケーブル固定用クランプ、ダウンチューブ	2-3 Nm
		シートステイロ	4-6 Nm
ハブ	Alfine SG-S501	八角ナット	30-45 Nm
クランク	FC-S500	左クランクアームの調整ネジ	0.7-1.5 Nm
		左クランクアームの固定ネジ	12-15 Nm
シフトレバー	SL-S503	ハンドルクランプ固定ネジ	5 Nm
インナーベアリング			35-50 Nm
グリップ	Ergon GA1	クランプ	4 Nm
ブレーキレバー	Magura MT26	ハンドルクランプ	3 Nm
ブレーキキャリパー	Magura MT26	ブレーキキャリパー	10 Nm
ディスクブレーキ	Magura Storm	カウンターロック	40 Nm
ペダル	VP-615		35-40 Nm
ステム		クランプネジステアリングコラム	8 Nm
		クランプネジハンドルクランプ	6 Nm
シートポスト		クランプネジ	8-10 Nm
サイドスタンド	Pletscher	固定ネジ	45 Nm

ネジのトルク [一般]*

ネジ山	六角レンチ	トルクス	トルク
M	H	T	[Nm]
3	2.5	10	1.2
4	3	25	2.7
5	4	25	5.5
6	5	30	9.5
8	6	40	23
10	8	50	46
12	10	55	79

* シリンダーヘッドネジ DIN 912/ISO 4762、硬度 8.8 に有効

コンポーネントメーカーのウェブサイト

<http://bike.shimano.com>

<http://www.crankbrothers.com>

<http://www.magura.com>

<http://www.ergon-bike.com>

<http://www.carbondrivesystems.com>

<http://www.fizik.it>

<http://www.schwalbe.com>

<http://www.cateye.com/de>

<http://www.CODE-No.com>

Porsche, Porsche Design, the Porsche Crest, 911, Carrera, Targa, Boxster, Cayenne, Cayman, Panamera, Spyder, Speedster およびその他の商標は、Dr. Ing. h.c. F. Porsche AG の登録商標です。

デザイン、サイズ、素材等は予告なく変更されることがあります。印刷の都合上、写真は実物の色と異なる場合があります。

Status: 06/13
Printed in Germany

Porsche Lizenz- und Handelsgesellschaft mbH & Co. KG
Porschestraße 1
74321 Bietigheim-Bissingen
Germany
www.porsche.com

